令和5年(2023)

人てんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

- ○農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
- ○農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。農薬の使用に際しては、 ラベルをよく読んで確認してください。
- ○生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
- ○農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

水100ℓ当たり農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剤量 g·mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剤量 g·mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式(水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤)

散布量 (水: パ) ÷ 希釈倍数 × 1,000 = 必要農薬量 (g・ml)



 J
 A
 て
 ん
 ど
 う

 J
 A
 全
 農
 山
 形

天童市農協農畜産物安全安心推進本部

JAてんどう情報サービス

http://www.jatendo.or.jp/

令和5年 水稲病害虫防除基準

2022年11月1日現在

種	子	消毒	※ 種子更新は毎年必ず行う。							
		対象病害虫	使用薬剤	使用方法			注意事項		月日	防除実績 (メモ)
()	もち	病・ ばか 苗病		浸 漬 処 理	(1)薬液 <i>の</i>	使用量				
苗	$\vec{\Box}$	枯細菌病		塩水選を行ない、水洗いした種もみの水を切り、200倍液(水20%に対して		乾燥種もみ	水	テクリードC フロアブル		
ご	ま葉	枯 病 • 褐 条 病	テクリードCフロアブル	切り、200倍液(水20%に対して テクリードCフロアブル現物100ml) に24時間浸漬する。		10kg	20 / 1	1 0 0 m l	/	
₽	み	枯 細 菌 病	(浸種前:1回)		(2)使用後	の薬剤は水路や池に	すてない。			
苗	立枯病(リ	ゾープス菌・トリコデルマ菌)			(3)薬液の	温度は極端な低水温	を避けること。			

		※ 生もみがら・わらなどは、ばれ	か苗病・いもち病の伝染源になるの~	で育苗資材には使用しない。			
育苗期		※ 育苗箱施用剤を使用した場	合は、同一場所の後作で野菜等を精	は培しない。			
時期	対象病害虫	使用	薬剤		注意事項	月日	防除実績
□ 5 ₩	733700五	省力体系	一般体系		<u> </u>	70	(メモ)
は種前	苗 立 枯 病 (ピシウム菌)		タチガレエースM粉剤	粉剤は1箱当たり8g使用し、	(1) 適正酸度(PH4.5~5.5)の土壌を使用する。		
(土壌混和)	(フザリウム菌)	_	(は種前:1回)	育苗箱土壌に均一に混和する。	(2)人工培土を使用する場合でも混和する。	/	
	ムレ苗防止					<u> </u>	
は種時	苗 立 枯 病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) (リゾープス菌)	ナエファインフロアブル	_	は種時に、灌水をかねて、1箱 当たり1,000倍の場合は50 0m1、2,000倍の場合は1 派を灌注する。	(1) リゾープス菌・細菌性病害の発生を防ぐため、 出芽の土温は30℃以上にしない。(2) 液温を20℃前後で使用する。 (白化現象を防ぐため)	/	
	ムレ苗防止	(は種時:2回以内)		FIN CIELLY O.	(3) ムレ苗防止に使用する場合、ピシウム菌に有効。		
77. ++ ///	苗立枯病		ダコニール1000	500倍(20m1/10烷)			
発芽後	(リゾープス菌)	_	(は種時~は種14日後:2回以内)	液を1箱当たり500m l 灌注す る。			
育苗期	苗 立 枯 病 (フザリウム菌) (ピシウム菌)	_	タチガレン液剤 (は種時及び発芽後:2回以内)	は種7~10日後から平均気温 が10℃以下の日が2~3日続い た時はタチガレン液剤500倍 (20m1/10%)液を1箱当 たり500m1灌注して予防す	ない場合は、タチカレン液剤の代わりにタチカ	/	
	人 人 芸 陸 止			ス		1	

育苗箱施用剤	<u>, </u>						
時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準使用 時期使用回数		注意事項	月日	防除実績(メモ)
			は種前	育苗箱の床土又は覆土に1箱当たり <u>50g</u> を均一に混和する。	薬害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 (1)軟弱徒長苗には使用しない。		
は種前 〜 移植当日	い も ち 病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	ブーンパディート箱粒剤	は種時 (覆土前) 〜 移植当日	は種時(覆土前)〜移植当日に1箱当たり 50gを育苗箱の上から均一に散布する。	(2) 茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 (3) 移植後は、すみやかに湛水する。 ※ 育苗箱1箱当りに乾籾として200~300g程度を高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50~100gまでの範囲で調整する。 ※ 箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。	/	

カメムシ対策	耕種的防除	① カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草を徹底する。 ② 出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは7月20日頃までに行ない、その後8月下旬(8月25日頃)まで草刈りは行わない。	/	
	特別防除	カメムシの発生が多い圃場では、7月上中旬にトレボン乳剤 2,000倍(収穫14日前まで3回以内)を畦畔を含む水田周辺部に 90リットル/10a額縁散布する。	/	

無人へリによる防除体系

赤八・ノにめ	O 173 IW IT 7K						
時期	対象病害虫		適正使用基準使用時期使用回数		注意事項	月日	防除実績(メモ)
穂揃期 (8/7~8/12頃)	い も ち 病 紋 枯 病 ウ ン カ 類 カ メ ム シ 類	トップジンスタークルフロアブル	収穫 , 14日前まで 3回以内	4倍液を10a当たり800m l 無人へリで散布する。	(1)穂いもち病防除の重要な時期なので防除を徹底する。 (2)カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	
穂揃期 7~10日後 (8/15~8/20頃)	カ メ ム シ 類ウ ン カ 類	エクシードフロアブル	収穫 7日前まで 3回以内	1 6 倍液を 1 O a 当たり 8 O O m l 無人へリで散布する。	(1)カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	

個人防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準使用 時期使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)
7月下旬	い も ち 病	コラトップ粒剤5	出穂30日前〜 5日前まで 2回以内	- 湛水して10a当たり3kgそれぞれ散布する。	(1)散布時は湛水(水深3㎝以上)にし、散布後7日間は落水、 かけ流しはしない。 (2)紋枯病が心配される所では、モンガリット粒剤		
(7月25日頃)	カ メ ム シ 類	キラップ粒剤	収穫14日前 まで 2回以内	一	(2) 版相級が間間では、		
穂揃期	ウ ン カ 類 カ メ ム シ 類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ	スタークル粒剤	収穫 7日前まで 3回以内	湛水して10a当たり3kg散布する。	(1)散布時は湛水(水深3㎝以上)にし、散布後7日間は落水、 かけ流しはしない。	/	

水稲倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	使用回数	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
スマレクト粒剤	出穂7〜20日前	2 k g	1 🗆	(1) 散布時は湛水状態で使用する。 (2) 重複散布や多量散布にならないようにする。 (3) 散布後、7日間は落水・かけ流しはしない。	/	

除草剤の使用基準

- ※ 除草剤散布後7日間は落水しない。
- ※ 除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。
- ※ 移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期内の早い時期に散布する。
- ※ 藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので注意する。

◎効果高い ○効果ある △やや劣る ※ いずれか一剤使用する。 ※ いずれか一剤使用する。 体系処理 初期薬剤名 抵抗性アゼナ 使用時期 中期薬剤名・使用時期・使用量 抵抗性アゼナ 抵抗性ホタルイ 月日 抵抗性ホタルイ (10 a 当たり) (初期十中期) レブラス1キロ粒剤 移植時または クラール1キロ粒剤 \circ 0 移植後14日~ノビエ4葉期 0 0 移植直後~ 1kg /ビエ1.5葉期ま7 使用量 1 kg (1 Oa当たり) 移植直後~ 藻類対策 ク ラ ー ル E W 500m 1 0 0 移植後15日~ノビエ4葉期 0 0 体系処理 /ビエ1.5葉期ま7 使用量 500g(10a当たり) ワイドショット1キロ粒剤 1 ()個 移植直後~ エリジャンジャンボ 0 0 \circ 0 移植後15日~ノビエ4葉期 (300g)ノビエ1葉期まで 使用量 1 k g (1 Oa当たり) ブイゴールSM1キロ粒剤 移植時または \blacksquare 農将軍フロアブル \circ 0 300m1 移植後15日~ノビエ3.5葉期 0 0 移植直後~ 使用量 1 kg (1 Oa当たり) ※ いずれか一剤使用する。 植 ノビエへの 使用量 薬 剤 名 抵抗性ホタルイ 抵抗性アゼナ 使用時期 注意事項 月日 (10a当たり) 一発処理剤 使用時期 (1) 過剰散布にならないよう事前に散布機の吐出量を確認する。 ベッカク1キロ粒剤 0 0 3葉期まで 移植時または (2) 散布時期が遅れると効果が劣る恐れがあるので、適期内に散布する。 (1)粒 ディオーレ1キロ粒剤 0 0 3葉期まで 1 kg 移植直後 (3) 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 ~30日 (4) 移植時に使用する場合は、田植同時散布機で施用する。 バッチリLX1キロ粒剤 0 0 2. 5葉期まで (1) 散布前にボトルを軽く振って撹拌する。 移植後3日 0 0 3葉期まで (2) 散布は、水の出入りを止め湛水状態で原液のまま田面に散布する。 ディオーレフロアブル ~30⊟ 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 砂質土壌・漏水の大きな水田では使用しない。 500m 1 (5) 藻類や浮草が多発している水田では、 移植時または (2) フロアブル剤 拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。 (6) バッチリLXフロアフルを移植時に使用する場合は、 0 0 2. 5葉期まで バッチリLXフロアブル 移植直後 ~30日 田植同時散布機で施用する。 ※ いずれか一剤使用する。 移植3日後 ベッカクジャンボ \odot 0 3葉期まで 10個(250g) ~30⊟ (1) 散布は、水の出入りを止め、水深5~6cmに湛水して投げ込む。 移植3日後 ディオーレジャンボ 10個(400g) 0 0 (3) 省力散布剤 3葉期まで (2) 散布後7日間は止水とし、田面を露出させない。 ~30⊟ (3) 藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり 移植直後 バッチリLXジャンボ 0 0 2. 5葉期まで 10個(400g) 効果が劣ることがあるので使用しない。 ~30日 移植3日後 ベッカク豆つぶ250 0 3葉期まで 250g ~30日 ディオーレ顆粒散布手順 移植3日後 (1) 水尻をしっかり止める。 顆 0 0 オ 3葉期まで 80g (2) 水口流水中にセットし施用する。 ~30日 (3) 流水時間は30 a 当たり15分以上行う。 使用量 ノビエへの 月日 薬 剤 名 対象雑草 注意事項 使用時期 (10a当たり) 残 草 対 策 (1) 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。 バサグラン粒剤 移植後15~55日 広葉雑草のみ $3\sim4kg$ (2) 散布後3日間は入水しない。 (ナトリウム塩) 収穫60日前まで (3) 雨天が予想される場合は散布しない。 移植後14~60日 (1) 湛水状態(水深3~5cm)にし、水の出入りを止めてから散布する。 オモダカ対策 バイスコープ1キロ粒剤 広葉雑草のみ 1kg (2) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 収穫45日前まで 移植後14日~ (1) 湛水状態(水深3~5cm)にし、水の出入りを止めてから散布する。 トドメMF1キロ粒剤 5葉期まで ノビエ 1kg 収穫50日前まで (2) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 1 次 移植後15日~ クリンチャーバスME液剤 ノビエ・広葉雑草 5葉期まで (1) 散布前に落水して使用する。散布後3日間は入水しない。 収穫50日前まで (希釈水量70~100%) バサグラン液剤 500~700m 1 移植後15~55日 (2) 雨天が予想される場合は散布しない。 広葉雑草のみ (ナトリウム塩) (希釈水量70~100%) 収穫50日前まで 200ml 移植後20日~ (1) 落水散布又はごく浅く湛水して散布。 (2) クサネムの草丈70cmまで、イボクサの茎長60cmまで。 ロイヤント乳剤 ノビエ・広葉雑草 5葉期まで 収穫45日前まで (希釈水量 100%) 使用量 (10a当たり) 薬 剤 名 対象雑草 使用時期 月日 注意事項

刈取後の 残草対策

薬 剤 名	対象雑草	使用量 (1 O a 当たり)	使用時期	注意事項	月日
クロレートS	ー年生雑草及び多年生イネ科雑草 オモダカ	20~25kg 30~40kg	水稲刈取後 (秋期雑草生育期)	(1)雑草の発生が多かった圃場では、秋耕耘せずに刈取後なるべく早く使用する。	/

移植後30日~

収穫60日前まで

クサネムの草丈40cmまで

イボクサの茎長30cmまで

(1) 落水散布又はごく浅く湛水して散布。

幼穂形成期以降は使用しない。

(2) 出穂・籾の品質に影響するおそれがあるので、

大豆病害虫防除基準

			適正使用基準	月日
種子消毒(紫斑病・タネ/)	(工)	ハト対策と合わせて、キヒゲンを乾燥種子重量の1%種子粉衣する。	は種前 1 回	/
タ ネ バ	エ	カルホス微粒剤Fを6kg/10a散布し、土とよく混和する。	は種時 2 回以内	/
マメシンクイガ 及び 紫 斑 病		マメシンクイガはスミチオン乳剤1,000倍(収穫21日前まで 4回以内) 紫斑病はトップジンM水和剤1,000倍(収穫14日前まで 4回以内)を 混用し散布する。散布液量 100~300歳/10a	収穫21日前まで4回以内 ※スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、 ダイコンなど)に薬害がでるので注意する。	/

50~100ml

(希釈水量 100%)

大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

ノミニー液剤

クサネム・イボクサ

作物	除草剤名	使用量(10a当たり)	散布時期および使用方法	注意事項	月日
大 豆	エコトップP乳剤	500ml	は種後出芽前 (雑草発生前)	(1) 畑地1年生雑草に効果を示す。	
	エコトップP乳剤	(希釈水量 100烷)	1回 全面土壌散布	(2) 生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。 (3) 砂土では使用しない。	
&= 1/N E=			・マルチ前・は種前(雑草発生前)	(1) 展着剤は加用しない。	/
飼 料 用 とうもろこし		200m l	・ は種後発芽前 (雑草発生前)	(2) 薬害が生する恐れがあるので砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。 (3) 極端な過湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、	
	ゲザノンゴールド	(希釈水量 100点)	・生育期(とうもろこし2~4葉期)	生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 (4) 砂土では使用しない。	
			上記のうちいずれか1回	(4) 砂工 CIA 使用 O/A VI。	
			全面土壌散布		

ねぎの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

				適用のな	ある害虫							使用方法				(市田宝)	績(使用	80)	
作業	アザミウ マ類	シロイチ モジヨト	ネギハモ グリバエ	タマネギ	ネギコガ	ネキリムシ類	ネダニ類	アブラムシ類	IRAC コード	薬剤名	倍 率・	使用時期	使用回数	注意事項					
	. , , ,	ウ	グリバエ	八工							施用量(10a)	収穫前日数			108	201	308	408 5	5回目
育苗期後半 定植当日	ネギ		0	0		0	0		28+4A	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半 ~定植当日	1 🗆	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)あたり500mlを灌注	/				
定植時						0	0		ЗА	フォース粒剤	9kg	定植時	1 🗆	定植時までの処理は1回以内(作条土壌混和)、定植後の処理は1回以内(株元散布)	/				
AL ILES	ネギ		0						4A	ベストガード粒剤	6kg	定植時	1 🗆	植溝処理土壌混和	/				
	0	*	0		0			0	3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前	5回以内	※1,000倍でシロイチモジヨトウの適用あり	/	/	/	/	/
							0		16	アプロードフロアブル	1,000倍	収穫14日前	1 🗆	株元灌注	/				
						0			3A	ガードベイトA	3kg	生育初期	3回以内	株元散布	/	/	/		
	0	0	*		0				30	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫7日前	2回以内	※ハモグリバ工類	/	/			
生		0	0		0				13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前	2回以内		/	/			
育	0		0	*	0			0	1B	ダイアジノン乳剤40	1,000倍	収穫21日前	2回以内	※タマネギバエの場合は700倍で使用	/	/			
Ħ	ネギ		0				0		4A	ダントツ粒剤	3~6kg	収穫3日前	4回以内	株元散布但し、定植時までの処理は1回以内	/	/	/	/	
期	0	0	0		0				5	ディアナSC	2,500倍	収穫前日まで	2回以内		/	/			
	0	0	0		0			0	21A+39	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前	2回以内	さび病、べと病にも適用あり	/	/			
	0		0						34	ファインセーブフロアブル	2,000倍	収穫3日前	2回以内		/	/			
	ネギ	0							UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前	4回以内		/	/	/	/	
	0								4 A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/		

[●]ネギはネギアザミウマ

【 病害防除 】

				適用のあ	ある病害			FRAC			使用方法				使田宝	≅績(使用	旧日)	
作業	軟腐病	葉枯病	べと病	さび病	黒斑病	小菌核腐 敗病	白絲	絹病 コード		倍 率 • 施用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	1 🗆 🗏				508
		0	0	0	0			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内	単剤使用 混用·展着剤不可	/	/	/	/	ĺ
		0	0	0	0		() 11	メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日	3回以内		/	/	/		
	0							P2	オリゼメート粒剤	6kg	土寄せ時、収穫30日前	2回以内	土寄せ時に株元散布する	/	/		_	
				0	0			3	オンリーワンフロアブル	1,000倍	収穫14日前	3回以内		/	/	/]	
	0							24+M ⁻	カスミンボルドー	1,000倍	収穫14日前	※2回以内	│ - ※カスミンボルドー、カセット水和剤の総使用回数は2回以内。	/	/			
	0							31+24	カセット水和剤	1,000倍	収穫14日前	※2回以内						
	Ŭ							01.2	73 C 2 T 3000A3	1,000					<u> </u>		-	
<i>_</i>	0							31	スターナ水和剤	2,000倍		※3回以内	AND COLINGIAN ON OF THE PROPERTY OF THE PROPER	/	/	/	<u> </u>	1
生				0				3	サプロール乳剤	1,000倍	収穫前日	5回以内		/	/	/	/	/
			0	0	0			МЗ	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前	※3回以内	ツジラングノセンロセロタル ー カッドモロタル	/	/	/		
育		0	0	0	0				テーク水和剤	600倍		※3回以内		/	/	/		
			0					4+M3	リドミルゴールドMZ	1,000倍	収穫14日前	※3回以内		/	/	/]	
期			0	0			() 4+11	ユニフォーム粒剤	9kg	土寄せ時、収穫45日前	1 🗆		/			-	
				0	0			11	ストロビーフロアブル	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/		
		0	0	0	0	0		M5	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前	3回以内		/	/	/	<u> </u>	
							(7	モンカット粒剤	4~6kg	土寄せ時、収穫30日前	3回以内	土寄せ時に株元散布する	/	/	/		
		0		0	0	0	(7	パレード20フロアブル	2,000倍	収穫前日	3回以内		/	/	/	<u> </u>	
				0				3	ラリー水和剤	2,000倍	収穫7日前	3回以内		/	/	/		_
			0					21	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内		/	/	/	/	j
			0					40	レーバスフロアブル	2,000倍	収穫7日前			/	/		-	
					0	0	>	% 2	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫14日前	3回以内	※白絹病の場合は500~1,000倍、1 m 当り1リットル株元灌注	/	/	/		

[●]展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

ほうれんそうの防除薬剤

【 害虫防除 】

		-															
			適用のな	ある害虫						使用方法				体田宝	績(使用	IBO)	
作業	アブラム	アシグロハモ	ホウレンソウ ケナガコナダ	ヨトウム	ハスモン	ネキリム	I RAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項					
	シ類	グリバエ		シ	ヨトウ	シ類	<u>'</u> 1		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		108	201	308	408	500
播種前			0			0	ЗА	フォース粒剤	9kg	播種前	1 🗆	全面土壌混和	/		•	•	•
	0			0			ЗА	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける	/	/	/	/	/
生	0						4A	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内	アザミウマ類にも適用あり	/	/			
育			0		0		6	アファーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/			
期		0	0		0		15	カスケード乳剤	4,000倍	3日前まで	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性	/	/	/		
	0						1B	マラソン乳剤	2,000倍	14日前まで	4回以内		/	/	/	/	

【 病害防除 】

		ED 4.0			使用方法				体田宝	績(使用月日)	
作美	適用のある病害	FRAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項		使用天	頑(使用カロ)	
		_ '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗏	20目	308 408	50目
播種	が	4+11	ユニフォーム粒剤	9kg	播種前	1 🗆	全面土壌混和	/			•
	べと病・白斑病	P7	アリエッティ水和剤	1,500倍	前日まで	2回以内		/	/		
生	べと病	U17	ピシロックフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	耐雨性〇 予防的に散布する	/	/		
期	べと病	21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	耐雨性〇 予防的に散布する	/	/	/	
	べと病	40	レーバスフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内	耐雨性〇	/	/	_	

こまつなの防除薬剤

【 病害虫防除 】

11 -244		IRAC	FRAC	*** **· />	1-1-	使用方法		\2 \ \ 2 \ - \- \-	使用実	績(使用	月日)
作業	適用のある病害虫	コード	コード	薬剤名	倍 率 · 施用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	1 🗆 🗎	208	308
定 又播 植は前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	30kg	播種又は定植前	1 🗆	全面土壌混和。つまみ菜、間引き菜には使用しない。			_
前は前	מאוכוטאו		21	オラクル粉剤	20kg	播種前又は定植前	2回以内	全面土壌混和	/	/	
播種時	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	6kg	播種時	1 🗆	播種時では全面土壌混和 出芽時では土壌表面散布(ネキリムシ類の み適用)	/		'
時		ЗА		フォース粒剤	4kg	播種前	10	全面土壌混和	/		
	白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/
	00 %		11	アミスター20フロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/	
生育	アブラムシ類	4A		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	10	キスジノミハムシにも適用あり。	/		_
期	アフラムシ規	ЗА		アグロスリン乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	
	コナガ	15		カスケード乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アオムシ・マメハモグリバエにも適用あり。	/	/	
	J)/J	6		アファーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/	

トマトの防除薬剤

【 害虫防除 】 RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

			J	適用のな	ある害虫	Ė.			1.0.4.0			使用方法				(市田)	実績(使用月		
作美	ハモグリ	アブラ	アザミ	コナジ	171	ナミ	オオタ バコガ	ハスモン	I RAC コード	薬剤名	倍 率•	使用時期	使用回数	注意事項		使用:	天視(使用月		
	バエ類	ムシ類	ウマ類	ラミ類	ቻĽ˙ ቓ˙ Ξ	ハダニ	バコガ	₽ŀウ	-		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗏	20目	30目	40目	501
育苗期後	* 0	0	0	0					28	ベリマークSC	400倍	育苗期後半 ~定植当日	10	株当たり25ml灌注処理 浸透移行性あり、残効性あり	/				
定植	⊕ ○	0		0					4A	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1 🗆	植穴処理土壌混和	/				
				タバコ			0	0	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	脱皮阻害作用があるので遅効性	/	/	/		
		0		オンシツ					ЗА	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ピレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す	/	/	/		
	0			0	0		0		6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/
		0	ミカンキイロ	0					29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない	/	/	/		
生	0		0	0	0		0	0	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
1 -			ミカンキイロ		0	0	0		13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
				0					4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/	•		
育	0	0		0					4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	0		0	0			0	0	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/		•	
期	0						0		28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり	/	/	/		
	0						0	0	UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		/	/		•	
		0	0	0					4A	ベストガード水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫にもよく効く	/	/	/		
		O	0	0					4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
		0	0	0	0				23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する 浸透移行性あり、残効性あり	/	/	/		

※タバコは、タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)

※オンシツは、オンシツコナジラミ

【 病害防除 】

			ù	適用のな	ある病害	Ē						使用方法				佑田	実績(使用月		
作業	弥	苗立枯病	輪紋病	すすかび	葉かび病	灰色	菌核病	うどん	FRAC コード	薬剤名	倍 率•	使用時期	使用回数	注意事項		(文円)	大順(使用力		
	לאלאל	±10%3	されています。	病	来りしお	かび病	A127/3	こ病	- '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		10目	20目	30目	40目	508
育苗期		0							M4	オーソサイド水和剤80	800倍	播種後から2~3葉期	5回以内	㎡あたり2Lをジョウロまたは噴霧器で灌注。	/	/	/	/	/
				0	0	0	0	0	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ペンチオピラドを含む剤(アフェットフロアブル、ベジセイバー)の総使用回数は3回以内。	/	/	/		_
					0	0			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 浸透性展着剤のニーズは使用しない。	/	/	/	/	
					0	0	0		1+10	ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
	0		0	0	0	0		0	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	TPNを含む剤(ダコニール1000、 プロポーズ顆粒水和剤、ベジセイバー)	/	/	/	/	
生	0				0				40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	の総使用回数は4回以内。	/	/	/		-
	0				0			0	3+M3	テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/			
音				0	0				3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
P						0			9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 予防的に散布する。	/	/	/	/	
期	0			0	0	0		0	7+M5	ベジセイバー	1,000倍	前日まで	3回以内	ペンチオピラドを含む剤(アフェットフロアブル、ベジセイバー)の総使用回数は3回以内。 TPNを含む剤(ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤、ベジセイバー)の総使用回数は4回以内。	/	/	/		
					0	0			M7	ベルクート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
	0								21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	רםראיר ₪ אַ אַ אוועשטוניםראיר .	/	/	/	/]
						0			2	ロブラール500アクア	1,000倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/		

ミニトマトの防除薬剤

【 害虫防除 】

		ì	適用のあ	る害虫	3		1040			使用方法				(市田)	€績(使用戶	30)	
作業	ハモク゛リ		アザミウ			オオタ	IRAC コード	薬剤名	倍 率•	使用時期	使用回数	注意事項			、順 () 民用力	30)	
	バI類	シ類	₹類	ミ類	<i>گ</i> _	ハ゛コカ゛	_ '		施用量(10a)	収穫前日数	区口凹数		10目	20目	308	40目	508
育苗期後半	0	0	0	0			28	ベリマークSC	400倍	育苗期後半 ~定植当日	1 🗆	株当たり25ml灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	/				
定植時	0	0		0			4A	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1 🗆	植穴処理土壌混和。	/				
			ミカンキイロ			0	ЗА	アーデント水和剤	1,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
				タバコ		0	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/		
	0			0	0	0	6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/
		0	ミカンキイロ	0			29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/		
生	0		0	0	0	0	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/			
			ミカンキイロ		0	0	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ナミハダニにも適用あり。	/	/	/		
育				0			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
期	0	0		0			4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
743	0		0	0		0	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/			
	0					0	28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/		
		0	0	0			4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
		0	0	0	0		23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する 浸透移行性あり、残効性あり	/	/	/		

※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ

※タバコは、タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)

【 病害防除 】

		适	質用のあ	る病害	<u> </u>					使用方法				佐田宝	€績(使用戶	30)	
作業	疫病	輪紋病	楚かび病	灰色かび	菌核病	うとこ	FRAC コード	薬剤名	倍 率・	使用時期	使用回数	注意事項			ミ視 () 田戸	JD/	
	1又117	半冊小又介召	*/2 O %3	病	图1次形	病	-		施用量(10a)	収穫前日数	区口凹数		10目	20目	308	40目	5回目
			0	0	0	0	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
			0	0	0		1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/		
生	0	0	0	0		0	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/		•	
育			0				3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。 すすかび病にも適用あり。	/	/	/	/	/
				0			9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。	/	/	/	/	
期			0	0			M7	ベルクート水和剤	6,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/			•
	0	0	0				МЗ	ペンコゼブフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	ペンコゼブフロアブルは、すすかび病	/	/			
	0						21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	一にも適用あり。	/	/	/	/	

とうもろこしの防除薬剤(スイートコーン)

【 害虫防除 】

		適用のあ	ある害虫		1040			使用方法				使用実績((休田日口)	
作業	アブラ	アワノ	アワヨ	オオタ	I RAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項		区用大顺(医用力口/	
	ムシ類	メイガ	トウ	バコガ	_ '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗎	20目	308	40目
	0	*			ЗА	アディオン乳剤	3,000倍	14日前まで	4回以内	※2,000倍でアワノメイガに適用あり。	/	/	/	/
l	0				4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	
生		0			1A	デナポン粒剤5	4~6kg	21日前まで	2回以内	雄穂抽出期~雌穂抽出期。	/	/		
期		0	0		ЗА	トレボン乳剤	1,000倍	7日前まで	4回以内		/	/	/	/
, ,,,		0		0	28	フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	前日まで	2回以内		/	/		
		0		0	28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/	

きゅうりの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

		適	用のある害虫			1040			使用方法				(市田)	₹績(使用戶	30)	
作業	アブラムシ類	コナジラン新	アザミウマ類	ハダニ類	ウリノメイガ	I RAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項		区用ラ	、順()文用方	JU/	
	アフラムラ類	コノンフス規	アリミフマ類	パタ 二炔	992217	_ '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗏	20目	30目	40目	501
定植時	0	オンシツ	0			1B	ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1 🗆	定植時、作条散布又は植穴処理。	/				
	0	0	0			4A	スタークル粒剤	2g/株	定植時	1 🗆	植穴土壌混和	/				
	0	オンシツ				ЗА	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用をさける。	/	/	/		
		オンシツ幼虫				16	アプロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	/	/	/		
	0	0				29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/		
#		0	0	0	0	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバ工類にも適用あり。	/	/		-	
生			ミカンキイロ	0	0	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
		0		0		6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	1,000倍でハモグリバエ類にも適用あり。	/	/			
育	0	0	0			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍		2回以内		/	/	•		
			0		0	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日まで	2回以内		/	/		-	
期					0	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	/	/	/		
,43	0	0	0		0	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・べと病・褐斑病にも適用あり。(FRACコード 39)	/	/			
	0			0		1B	マラソン乳剤	2,000倍	前日まで		1,000倍でウリハムシに適用あり。	/	/	/		
	0	0	0		0	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	0	Ô	0	0		23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。	/	/	/		

※オンシツはオンシツコナジラミ ※ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

【 病害防除 】

			·····································	囲のあ	る病害				5040			使用方法				(市田)		30)	
作業	うどん こ病	べと病	斑点 褐斑病	炭疽病	灰色 かび病	菌核病	つる枯病	黒星病	FRAC コード	薬剤名	倍 率· 施用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	1 🗆 🗏	2回目	3回目	408	50目
定植品	#		0						P2	オリゼメート粒剤	6~7.5kg (5g/株)	定植時	1 🗆	植穴土壌混和	/				
	0				0	0			7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/		
	0	0	0						24+M1	カスミンボルドー	1,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/
	0				0				NC	カリグリーン	800倍	前日まで	_	展着剤を必ず加用する。	/	/	/	/	/
	0			0	0	0	0	0	1	トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	チオファネートメチルを含む剤(トップジンM水和剤、ゲッ	/	/	/	/	/
			0	0	0	0			1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	ター水和剤)の総使用回数は5回以内とする。 ジェトフェンカルブを含む剤(ゲッター水和剤)	/	/	/	/	/
			0		0	0			10+2	スミブレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	スミブレンド水和剤)の総使用回数は5回以内とする。	/	/	/	/	/
生	0	0	0	0	0			0	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	12回以内	TPNを含む剤(ダコニール1000、プロポーズ顆粒 ************************************	/	/	/	/	/
	0	0	0					0	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
育	0	0	0	0				0	21+M5	ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内	シアバファミドを含む剤(ドーシャスフロアブル ランマンフ	/	/	/	/	
期		0							21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	ロアブル)の総使用回数は4回以内とする。	/	/	/	/	[
, ,,,	0							0	3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/
			*						M7	ベルクート水和剤	4,000倍	前日まで	フロいゆ	※2,000倍で褐斑病に適用あり。	/	/	/	/	/
			*						IVI		4,0001	即口みて	7回以内	※2,000日で特別物に週出めり。	/	/			
	0								M10	モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも適用あり。	/	/	/		
	0								3	ラリー水和剤	5,000倍	前日まで		耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/
					0	0	0		2	ロブラール500アクア		前日まで		予防的に散布する。	/	/	/	/	j j
		0							45+40	ザンプロDMフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		

なすの防除薬剤

【 害虫防除 】

_	_											Ī	1			1					
				追	10月のま	ある害虫	<u>k</u>				I D A C			使用方法				佐田⊈	₹績(使用♬	30)	
作業	アブラ	ヨトウ	コナジ	テントウム		ハスモン	オオタ	ハモグリ	ミカンキイロ	チャノ	I RAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項		区のラ		JU/	
	ムシ類	ムシ	ラミ類	シダマシ類	ハラー規	ヨトウ	バコガ	バI類	アザ ミウマ	ホコリタ゛ニ	_ '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗏	20目	30目	408	508
定植時	. 0		0					0	アザミウマ類		4A	スタークル粒剤	1 g/株	定植時	10	植穴土壌混和。	/				
た他成	0								アザミウマ類		4A	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1 🗆	植穴又は株元土壌混和。根に直接ふれないように注意。	/				
	0		オンシツ	0							ЗА	アディオン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	0		0						0		29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/		
			0		0	0	0	0	アザミウマ類	0	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/		<u>-</u> '	
生		0		0	0	0	0		0	0	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	
			0		0			0		0	6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	水なすに使用しない。炎天下を避け夕方に散布する。	/	/			•
育					0					0	25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1 🗆		/		•		
F	0		0	0				0	ミナミキイロ		4A	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
			0			0	0	0	アザミウマ類		5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/		<u>-</u> '	
期						0	0				28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	_		-			0	0	O	アザミウマ類		UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		/	/	/	/	
	0		*	0					アザミウマ類		4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内	※コナジラミ類には2,000倍で散布する。	/	/	/		•
	0		0		0				アザミウマ類	0	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		

●オンシツはオンシツコナジラミ ●ミナミキイロはミナミキイロアザミウマ

【 病害防除 】

				ì	適用のな	ある病語	_		EDA 0			使用方法				(市田) (€績(使用♬	30)	
作業	菌核病	すす	半身	うどん	灰色	甲壯庄	褐色	褐紋病	FRAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項			に限 (民用)	J 🗆 /	
	图似的	かび病	萎凋病	こ病	かび病	杰们的	腐敗病	阿拟的	_ '		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		108	201	308	40目	5回目
		0		0					11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。浸透性を 高める効果のある展着剤(ニーズ等)は使用し ない。	/	\	/	/	
生		0		0					3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/	/
		0		0	0	0				ダコニール1000	1,000倍	前日まで	※4回以内	※TPNを含む剤(ダコニール1000、ブリザード	/	/	/	/	
育		0		0					27+M5	ブリザード水和剤	1,500倍	前日まで	※3回以内	水和剤)の総使用回数は4回以内とする。	/	/	/		='
Р		0		0	0				M7	ベルクート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	0				0	0		0			2,000倍	前日まで							
期			0						1	ベンレート水和剤	500倍	定植後~ 14日前まで	3回以内	1 株当り200~300ml 土壌潅注。					_
				•			0		21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	/	/	
					0				2	ロブラール500アクア	1,500倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	_	/	

ばれいしょの防除薬剤

【 病害虫防除 】

			1040				使用方法				(市田S	実績(使用月	10)	
月	作業	適用のある病害虫	I RAC コード	FRAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項			大順(区用人	10)	
			_ '	1		施用量(10a)	収穫前日数	使用凹数		1 🗆 🗏	20目	30目	40目	508
4月	植付前	ケラ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	4~6kg	植付前	1 🗆	全面土壌混和又は作条土壌混和。	/		·		
5月		疫病、夏疫病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	5回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	/
	生	アブラムシ類	4A		アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	14日前まで	3回以内	2000倍でテントウムシダマシ類にも適用あり。	/	/	/		
	育	疫病、夏疫病、菌核病		29	フロンサイド水和剤	2,000倍	14日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	
6月	期	アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ	4A		アドマイヤー顆粒水和剤	15,000倍	14日前まで	2回以内		/	/	•		
		疫病		21	ランマンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	

キャベツの防除薬剤

【 病害虫防除 】 RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

			1540	ED 4.0		, , , , , ,	使用方法		- くり。控がは光光地山上のため回来が			€績(使用)		0.20
月	作業	適用のある病害虫	I RAC コード	FRAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項					
			-			施用量(10a)	収穫前日数	IZ/IJE XX		10目	208	308	40目	508
	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	播種又は定植前	2回以内	┃ -全面土壌混和	/	/			
	AL ILLES	TRC ION'S		21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	王田 工教/此代	/	/			
8月		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1 🗆	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/				
0,3	定植時	ネキリムシ類	ЗА		フォース粒剤	4kg	定植時	10	全面土壌混和	/				
	発生時	ナメクジ類、カタツムリ類	-		スラゴ	5g/m²	発生時	_	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	/
		コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		べと病		МЗ	ジマンダイセン水和剤	400倍	30日前まで	3回以内		/	/	/		
	<u> </u>	黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
9月	生	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、アザミウマ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/		•	
	育	ヨトウムシ、オオタバコガ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ウワバ類	5		ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、ウワバ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
	期	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
		べと病、根朽病		M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/			
10月		アオムシ、ウワバ類、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/		
		オオタバコガ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/

はくさいの防除薬剤

【 病害虫防除 】

			IBAC	FRAC			使用方法				使用事	€績(使用)	目日)	
月	作業	適用のある病害虫	コード	コード	薬剤名	倍率·	使用時期	使用回数	注意事項	400				588
	ATT 1-2			36	ネビジン粉剤	施用量(10a) 20~30kg	収穫前日数 播種又は	1 🗆		108	20目	308	4世日	50目
	播種 定植前	根こぶ病			オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	全面土壌混和	/	/			
8月	—	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時		定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	/	-			
	定植時 発生時	ネキリムシ類	ЗА		フォース粒剤	4kg	定植時	10	全面土壌混和	/				
		ナメクジ類、カタツムリ類	-		スラゴ	5g/m²	発生時	_		/	/	/	/	/
		コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、 ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		べと病、黒斑病、白斑病		МЗ	ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	1 🗆		/				
9月	<u> </u>	軟腐病、黒斑細菌病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	21日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/			
	生	アブラムシ類、アオムシ、コナガ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
	育	ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
	期	べと病、黒斑病、白斑病、白さび病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	予防的に散布する	/	/			
10月		べと病、ピシウム腐敗病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	予防的に散布する	/	/	/	/	
IOA		アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/		
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/

だいこんの防除薬剤

【 病害虫防除 】 (秋冬取り)

			IRAC	FRAC			使用方法				使用生	○	H)	
月	作業	適用のある病害虫	コード	コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項					
						施用量(10a)	収穫前日数			1 🗆 🗎	201	30目	408	500
	播	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	1B		ネマトリンエース粒剤	20kg	播種前	1 🗆	全面土壌混和	/				
8F	種	キスジノミハムシ、アブラムシ類	4A		スタークル粒剤	6kg	播種時	1 🗆	播溝土壌混和	/				_
O)-	1	ネキリムシ類	1A		デナポン5%ベイト	3~6kg	30日前まで	4回以内	株元散布	/	/	/	/	
		黒斑細菌病、軟腐病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/	/		
9F		ナメクジ類、カタツムリ類	UN		スラゴ	5g/m²	発生時	_	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	/	\	/	/	/
0,	育	アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	1 🗆		/				
	期	アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ、カブラハバチ	3A+1B		ハクサップ水和剤	2,000倍	35日前まで	3回以内		/	/	/		
		白さび病、ワッカ症		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/		
10)	∃	アオムシ、コナガ、キスジノミハムシ	5		スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/		
		アブラムシ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アブラムシが多い場合	/	/			

せいさいの防除薬剤

【 **病害虫防除** 】

月	作業	適用のある病害虫	IRAC	FRAC	薬剤名	倍 率・	使用方法 使用時期		注意事項	使用詞	実績(使用月	3日)
/ 3	11 🖈	過言のののの言語	コード	コード		施用量(10a)	収穫前日数	使用回数	江心主兴	1 🗆 🗎	20目	30目
	播種前			36	ネビジン粉剤	20~30kg	播種又は	1 🗆	全面土壌混和	/		
9月	定植前	ないがら		21	オラクル粉剤	20kg	定植前	2回以内	土田土塚/比州	/	/	
9月	播種時	アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		スタークル粒剤	6kg	播種時	1 🗆	播溝土壌混和	/		
	通信可	ネキリムシ類、キスジノミハムシ	ЗА		フォース粒剤	4kg	播種前	10	全面土壌混和	/		
10月	41-	白斑病		11	ストロビーフロアブル	3,000倍	7日前まで	2回以内	単用散布。予防的に散布する	/	/	
TOA	」 三 三	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	6		アファーム乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/
11月	P	白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	/	/	/
	747	アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1 🗆		/		

えだまめの防除薬剤

【 病害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

		1040				使用方法			佐田 ⊆	 実績(使用月	3 🗆)
作業	適用のある病害虫	I RAC コード	FRAC コード	薬剤名	倍 率·	使用時期	使用回数	注意事項		大順 (区用力	(U)
					施用量(10a)	収穫前日数	及用色数		10目	20目	30目
	紫斑病		M3	 キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1 kgあたり	播種前	1 🗇	カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。			
探話台	カラス、ハト		IVIO	TE	2 Oml (原液塗沫処理)	1田4末日7	ا ت	チウラム剤処理種子には使用しない。			
播種前	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ	4A	12+4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1 kgあたり 8 ml (原液塗沫処理)	播種前	1 🗆	水生動物に影響を及ぼすおそれがあるので、 使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に 流さず適切に処理する。	/		
播種時	ネキリムシ類、タネバエ	1B		カルホス微粒剤F	6kg	播種時	1 🗆	土壌表面散布、土壌混和処理	/		
通信可	アブラムシ類	4A		アドマイヤー1粒剤	3kg	播種時	1 🗆	播溝土壌混和	/		
	べと病		11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/
	べと病、茎疫病、斑点細菌病		40+M1	フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	3回以内		/	/	/
	菌核病、灰色かび病		2	ロブラール水和剤	1,000倍	30日前まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/
	莢汚損症、紫斑病		1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	7日前まで	3回以内		/	/	/
生	アブラムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダ二類	1B		マラソン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	1,000倍でマメシンクイガ、ハモグリバエ類に適用あり。	/	/	/
育	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/
期	アブラムシ類、ハモグリバエ類、カメムシ類、ダイズサヤタマバエ	4A		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	3,000倍でフタスジヒメハムシに適用あり。	/	/	
	マメシンクイガ、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	ЗА		アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/	/
	ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ	28		プレバソンフロアブル5	4,000倍	3日前まで	3回以内		/	/	
	マメシンクイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	ЗА		トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/_		
	ハスモンヨトウ	28		フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	4,000倍でウコンノメイガ、ネキリムシ類に適用あり。	/	/	/

カリフラワー・ブロッコリーの防除薬剤

【 病害虫防除 】

月 作業 適用のある病害虫 TRAC FRAC 薬 剤 名 倍 率・ 使用時期 _{使用回数} 注意事項 世界美額(使用月日)	_ // //														
Part 100m		/ -	第四の七つ庁中七	IRAC	FRAC	** ** /7		使用方法		\2 \tau \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		使用第	續(使用)	日	
日田州 日田州 日田州 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	月	作業	適用のめる病害虫 			学 利 名 			使用回数	注意事項 	1 🗆 🗎				508
8月 左傾的 様とらめぬ 21 オラクル粉剤 30kg 定植的 2回以内 室面工壌混和 / / 9月 本籍時次は定植的 欠は 定植的 欠は 定植的 欠け 次に植物 欠け 次に植物 欠け 次に植物 欠け で植物 欠け で植物 欠け で植物 欠け で植物 欠け では では では でんち では でんち できない かあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 変 まが生する恐れがあるため、花 できない できない できない できない できない できない できない できない		育苗期 後半	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		ベリマークSC	400倍	\sim	1 🗆	ポット1冊(約30×60cm、使用土壌	/				
括種時	0.0	中植前	担こで病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	播種又は定植前		今面+按 识 和	/				
又は 定植時 ネキリムシ類、ケラ 1B ダイアジノン粒剤5 4~6kg 播酵的又は定植時 但し粒剤の生育期の処理は1回以内 / / / 9月 アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ 28 プレバソンフロアブル5 2,000倍 前日まで 3回以内 /	8月	是他則	代という		21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	土田工塚/比州	/	/			
9月 生育期 アブラムシ類 29 ウララDF 2,000倍 14日前まで 2回以内 プロッコリーの使用時期は前日まで / / / / / / / / / / / / / / / / / / /		又は	ネキリムシ類、ケラ	1B		ダイアジノン粒剤5	4~6kg	播種時又は定植時	2回以内		/	/			
9月 生育期 生育用 でと病、軟腐病 M1 Zボルドー 500倍 - 日本で登録。 ・ 日本で登録。 ・ 日本で登録。 ・ 日本で登録。 ・ 日本で登録。 10月 アブラムシ類 29 ウララDF 2,000倍 14日前まで 2回以内 プロッコリーの使用時期は前日まで / アリン乳剤 ・ イン / イン / イン / イン / イン / インファブラムシ類、コナガ、アオムシ ・ 日本の大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの			アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
10月 アザミウマ類、アブラムシ類 1B マラソン乳剤 2,000~3,000倍 3日前まで 5回以内 プロッコリーの使用時期は14日前まで /	9月		べと病、軟腐病		M1	Zボルドー	500倍	_	_	蕾形成期までに散布する。 野菜類	/	/	/	/	/
アブラムシ類、コナガ、アオムシ 4A モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 7日前まで 3回以内 ブロッコリーの使用時期は1 4日前まで / / /		期		29		ウララDF	2,000倍	14日前まで	2回以内	ブロッコリーの使用時期は前日まで	/	/			
アプラムシ類、コナガ、アオムシ 4A 「七人ピラン顆粒水溶剤 2,000倍 7 日間まで 3 回以内 プロッコッニの使用時期は 1 4日間まで 7 7 7 7	10日			1B							/	/	/	/	/
	IOA			4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	ブロッコリーの使用時期は14日前まで	/	/	/		

[●] 展着剤は、水和剤に加用する。

野菜除草剤主要適用作物

作物名除草剤名	ねぎ	ほうれ んそう	こまつな	トムト	イ - -	とうも ろこし	きゅうり	なす	ばれいしょ	キャベツ	はくさい	だいこん	せいさい	えだまめ	備	考
バスタ液剤	収穫前日まで 2回以内	収穫7日前まで 2回以内		収穫前日まて	3回以内		収穫前 3回	日まで 以内	収穫21日前まで 2回以内	収穫	45日前まで 2回	以内	収穫7日前まで 2回以内	収穫14日前まで 3回以内		
ザクサ液剤	収穫前日まで 2回以内	・は種前又は 畦間処理 収穫7日前まで 2回以内		• 定植前又(収穫前 3回)	旧まで		・定植前又は 畦間処理 収穫前日まで 3回以内	・定植前又は 畦間処理 収穫前日まで 3回以内	・畦間処理 収穫21日前まで 2回以内	・定植前又は 畦間処理 収穫45日前まで 2回以内				・は種、定植前又は 畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	*1	参照
サンダーボルト	定植7日前まで 3回以内	定植7日前まで 1回					定植7日前まで 1回	定植7日前まで 1回		定植7日前	まで 1回	播種7日前まで 1回		は種10日前まで 1回	 土壌が流亡しるおそれのあい。 2参照 	たり、崩れたりす る所では使用しな
ラウンドアップ マックスロード	収穫30日前まで 定植後畦間処理 3回以内	耕起前又は は種前まで 3回以内	耕起前まで 1回	耕起前まて	· 10	出芽前まで 2回以内	収穫前 2回		耕起前まで 1回	定植5日	前又は 3前まで 回	収穫5日前まで 2回以内	耕起前まで 1回	収穫前日まで 2回以内	*2	2参照
草枯らし	定植後畦間処理 収穫30日前まで 3回以内		耕起又は定植了[日前まで 1回			耕起又は定植7E	3前まで 1回	耕起又は定植 7日前まで 1回	耕起又 7日前ま	は定植 で 1回	耕起又はは種 7日前まで 1回	耕起又は 定植7日前まで 1回	は種7日前まで 1回	 展着剤の加用 散布前に雑草のかない。 ※2参照 	は必要ない。 の地上部を刈り払
トレファノサイド 粒 剤 2 . 5	定植後但し 収穫30日前まで			(露定植前(根本)			(露地•移植) 定植前(植穴掘 前)1回	(露地) 定植前	植付後~萌芽前 1回	(移植) 定植前(植穴掘 前) 1回	(移植) 定植前(植穴掘前) 1回			播種後出芽前		
トレファノサイド 乳 剤	収穫30日前30 2回以内 (雑草発生前)		は種直後 1回 (非結球あぶらな科葉 菜類として登録)	AE11289 (16			間グーロ (露地・直播) は種直後1回	作相的 (植穴掘前) 1回		(移植) 定植前(植穴掘 前)1回 (直播) は種直後 1回	- 回播) (直播) は種直後 1回	(露地) は種直後 1回	は種直後 1回	相性该山学的 1回	*3	参照
ラッソー乳剤		は種 11				は種後出芽前 1回				定植8日後まで 1回	は種直後 1回	は種直後 1回		は種後出芽前 1回	1. 砂壌土では使 2. 雑草発生後は 発芽前に散布	効果がないので
ゴーゴーサン乳剤	定植後但し10日後 まで 1回					は種後出芽前 1回			植付後萌芽前 1回	定植前 1回	定植前 1回				 キク科雑草及効果が劣る。 必ず雑草発生 	
プリグロックスL	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理 収穫3日前まで 5回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・萌芽直前 ・畦間処理 収穫前日まで 2回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫30日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理 収穫14日前まで 4回以内	1.極めて即効性 直接散布は控	のため、作物への iえる。
ナプ乳剤	収穫30日前まで 1回	収穫7E 1l		収穫14日前まで 1回					収穫前日まで 2回以内		収穫14日前まで 1回		収穫7日前まで 1回	収穫14日前まで 1回	 イネ科植物(を除く)にの イネ科雑草3~ 使用すること 	
ロロックス	(露地) 定植後但し 収穫30日前まで 1回 (雑草発生前)					は種直後 1回			植付直後~萌芽前 1回					本葉3葉期以降 収穫30日前まで 1回	 生育の進んだ雑場合があるのでように散布する 砂質土壌では使 	草には効果が劣る 、時期を失しない 。 用しない。
クレマート乳剤	定植活着後 但し 定植10日後まで 1回 (雑草発生前)						定植前 1回 (雑草発生前)	定植前又は 定植・マルチ前 1回 (雑草発生前)	植付後萌芽前 1回 (雑草発生前)		· 直前 回 発生前)				1. 発芽前処理剤 の発生前に処	なので、必ず雑草 理する。

※使用する前に、必ず農薬のラベルをよく確認して下さい。

^{※1.} バスタ液剤・ザクサ液剤はグルホシネートという同一成分を含んでいるため、総使用回数に注意する。

^{※2.} サンダーボルトOO7・ラウンドアップマックスロード・草枯らしは、同一成分であるグリホサートを含んでいるため総使用回数に注意する。 散布前に雑草の地上部を刈り払わない。

^{※3.} 薬害のおそれがあるため、なす(露地)に使用する場合、定植3日前までに使用する。 トレファノサイド粒剤2.5とトレファノサイド乳剤は、同一成分であるため、総使用回数に注意する。 必ず雑草発生前に散布する。

果樹病害虫防除基準

総合防除

耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組みあわせた防除

- ○病害虫に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。
- ○夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。
- ○越冬病害虫の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草 を徹底する。
- ○樹勢が弱まると病害虫に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。
- ○枝や幹に薬剤を十分に散布する。
- ○気象条件に合わせた防除を行う。(干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する)
- ○散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。
- ○薬剤散布を行う場合、気温25℃以上の時は散布を控える。 (散布後、急激に温度が上がることが予想される場合も散布を控える)
- ○薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

生物的防除

交信かく乱剤(性フェロモン剤)利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。

							>	过象害虫	7			
薬剤名	対象	設置	設置量	/\ ⁻	マキムシ	ノ類	シン	クイム	シ類			
	作物	時期	(10a)	ミダレ カクモン ハマキ	リンコ゛ コカクモン ハマキ	リンゴ ンハマキ	モモシンクイカ	ナシヒメ シンクイ	スモモヒメシンクイ	モモハ モクリカ゛	シバ	ヒメボクトウ
コンフューザーN	果樹類		150~200本	(()	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	200本 (すもも)			
コンフューザーR	果樹類 (りんご)	4月20日頃	100本	0	0	0	0	0				
コンフューザーMM	果樹類 (もも)	4月20日頃	120本	(()	\circ	(()	\bigcirc	\bigcirc		\circ		
ナシヒメコン	果樹類		50~100本					\bigcirc	○ (すもも)			
ハマキコンーN	果樹類	5月20日頃	150本	\bigcirc		\bigcirc						
スカシバコンL	果樹類	0 / 1 / 2 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1	50~100本	さくらん	いぼ、もも	、すもも	(プルー	ン)、う	め、かき	等で使用	\bigcirc	
ボクトウコン-H	果樹類	6月上旬	100本			りんこ	、日本	なし等				\bigcirc

^{※ (○)}は、害虫登録はない。

使用方法

交信かく乱剤の所定本数(コンフューザーN150~200本/10a)を越冬世代の発生前の4月20日頃まで園地に設置する。 設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。

また、効果を高めるために、団地化を図る。

利用上の留意事項

- ①小面積(1ha以下)では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。
- ②性フェロモン成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1~2割多くする。
- ③対象病害虫の発生密度が高いと雌雄の遭遇確率が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- ④風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- ⑤対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。
- ⑥交信かく乱剤は経年的に使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

[※] 総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

~ 苗木・未結実樹の防除について~

※近年、樹脂細菌病による枝枯れや苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤 500倍液に10分間根部を浸漬する。(対象樹種:りんご・もも・なし、植付前1回)

0 さくらんぼ

回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名•倍数		注意事項
4	休眠期(発芽前)	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	① 定植時に発芽していない場合は、石灰硫黄合剤10倍を
	定 植 時 (発芽~発芽7日後)	樹脂細菌病	I Cボルドー66D	40倍	散布する。
2	4月中旬~5月上旬	灰 星 病 褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	I Cボルドー66D	40倍	① 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取って トップジンMペーストを塗布する。(3回以内)② ハマキムシ類の発生が心配される場合は、 バイオマックスDF2,000倍を散布する。
3	6月10日頃	褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	I Cボルドー66D	40倍	
4	7月10日頃	褐色せん孔病 炭 疽 病 ハ ダ 二 類 ─── →	・ トレノックスフロアブル ・ ダニコングフロアブル	500倍 2,000倍	
5	8月10日頃	褐色せん孔病 炭 疽 病	・ Cボルドー66D または ・トレノックスフロアブル	40倍 500倍	
6	9月上旬~9月中旬	褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	I Cボルドー66D	40倍	
7	落 葉 後 (11月上旬~12月上旬)	越冬病害虫 ──── 樹脂細菌病 ──	· 石灰硫黄合剤 または ・ I Cボルドー66D	10倍 40倍	

〇 りんご・西洋なし

回数	防除時期	対象病	海害虫	薬剤名•倍数	7	注意事項
山女	以安宁山村(A	りんご	西洋なし	栄用石・lost	(注 思争块
1	休眠期(発芽前)	腐らん病 カイガラムシ類 ハダニ類	越冬病害虫 カイガラムシ類 ハダニ類	石灰硫黄合剤	10倍	
2	落花1週間後 (5月中旬)	輪紋病	輪 紋 病 胴 枯 病	トップジンM水和剤 または ベンレート水和剤	1,500倍 2,000倍	① 胴枯病(西洋なし)の萎凋死花そうや枯死枝を徹底して取り除き 処分する。切口にはトップジンMペーストを塗布する。(3回以内)
3	6月中旬	輪紋病	輪紋病	ICボルドー412	30倍	
4	7月上中旬	輪 紋 病 (ハダニ類)	輪 紋 病 (ハダニ類)	ICボルドー412	30倍	 ハダニ類の発生が多い園地では、ダニコングフロアブル 2,000倍を散布する。
5	梅雨明け直後 (7月下旬)	輪紋病	輪 紋 病 (胴 枯 病)	ICボルドー412	30倍	
6	8月中旬	輪 紋 病 (ナミハダニ 、 リンゴハダニ)	輪 紋 病 (ハダニ類)	ICボルドー412	30倍	① ナミハダニ、リンゴハダニの発生が多い園地では、 ダニゲッターフロアブル2,000倍を散布する。

O も も・ すもも

	5 6 9 5 5				
回数	防除時期	対象病害虫もも	薬剤名•倍数	対象病害虫	注意事項
1	発芽前	ハダニ類	スプレーオイル50倍石灰硫黄合剤10倍		
2	開 花 前	せん 孔 細 菌 病 縮 葉 病	ICボルドー412 30倍	黒 斑 病 か い よ う 病	
3	5月中旬	せん孔細菌病──→	トレノックスフロアブル 500倍 マイコシールド 2,000倍 ウララDF 2,000倍	景 ◆	
4	5月25日 頃	せん孔細菌病 灰星病・黒星病 枝 折 病	トレノックスフロアブル 500倍 トップジンM水和剤 1,000倍		
5	6月25日 頃	ハマキムシ類 シンクイムシ類 モハボ ケリガ	ナリアWDG 2,000倍 フェニックスフロアブル 4,000倍 ダニコングフロアブル 2,000倍	☆	
6	8月10日頃	ア ブ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	ア ブ ラ ム シ 類 シンクイムシ類	
7	9月中旬	せん孔細菌病 縮葉病 コスカシバー	I Cボルドー412 30倍 フェニックスフロアブル 4,000倍		

[※] 新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、せん孔細菌病対策として防風ネットを必ず設置する。

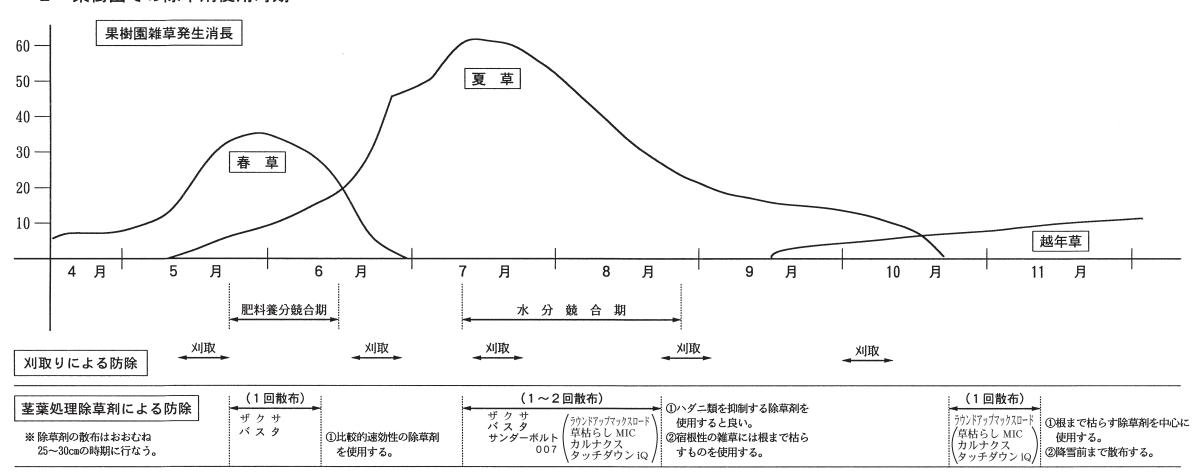
草剤 除 使 用 基 準

1 果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- ① 果樹は一度薬害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。
- ② 散布する水量は10a当たり150%を標準とし、草丈の大きいときは水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍率でなく、 単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないように注意する。
- ③ 散布はなるべく晴天無風の日に行ない、噴霧する霧を粗くして吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉(とくに 下枝)にかからないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。
- ④ 草丈が30 cm以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。
- ⑤ 展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。
- ※ ダニ剤散布予定日の7日前に除草剤を使用する。

果樹園の雑草管理(基本)

2 果樹園での除草剤使用時期



3 果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適用樹種	10a当たりの 散布液量	10a当たりの使用薬量	効果の 発 現	効 果 の 持続期間	使用場面	備考
タッチダウンi Q		25~100% スギナ(25~50%)	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0以)	3~5日後 7~10日後	60日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25㎏)散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100%%	1年生及び多年生 400~1,000ml	2~5日後		春草·夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スベリヒユ(ひょう)・ギシギシに効果が高い。
草枯らしクサクリーン液剤カ ル ナ ク ス	果樹類 (かんきつを除く)	50~100¦ึ่ม	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml	7~14日後	60~70日	秋期越年生雑草	1. グリホサートを含む剤について下記で整理して記載する。
ラウンドアップマックスロード		50~100∤%	1年生 200~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0烷)	3~5日後		夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25%)散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強害雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ザクサ液剤							
バスタ液剤	りんご、ぶどう、もも、なし、 かき、さくらんぼ、 小粒核果類、ネクタリン、 ブルーベリー	100~150⅓	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後	40~50日	春草·夏草生育期	

[※] サンダーボルト007はパイナップルに適用がない。草枯らし、クサクリーン液剤、カルナクスはパイナップルに適用がない。

4 除草剤主要適用作物

	成 分	薬剤特性	水田畦畔	ぶどう	さくらんぼ	う	め	りんご	な	L	か	き	ŧ	ŧ	す も も (プルーン)	<	Ŋ	樹木類
タッチダウンiQ			収穫14日前まで					収 稜	隻 5 日	前	まで							雑草生育期
			2回以内					3	回	以	内							4回以内
サンダーボルト007			収穫14日前まで					収 移	隻 7 日	前	まで							
	****	In to a	2回以内					3	回	以	内							_
単 枯 り し	グリホサート を含む剤	根まで 枯らす	収穫14日前 まで					収 移	隻 7 日	前	まで							雑草生育期
クサクリーン 液 剤カ ル ナ ク ス			2回以内					3	回	以	内							4回以内
-1.19- 2- 19-			収穫前日まで					収 移	隻 7 日	前	まで							雑草生育期
ラウンドアップマックスロ <i>ー</i> ド 			3回以内					3	回	以	内							4回以内
ザクサ液剤	グルホシネー		収穫7日前まで		収穫前日まで			収穫21日前まで			Ц	収穫前	日まで			収穫30日	前まで	雑草生育期
バスタ液剤	トを含む剤	のみ	2回以内		3回以内			3回以内				3回以	以内			3回以	内	3回以内

- ※ グリホサートを含む剤(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤、カルナクス)は同一成分の為、総使用回数に注意する。
- ※ グルホシネートを含む剤(ザクサ液剤、バスタ液剤等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

紋羽病対策

土壌灌注

^{薬剤名}: フロンサイドSC

使用方法

作物名	適用病害虫	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法	
りんご		収穫45日前まで		500倍	500倍の場合	灌注水量が
なし	白紋羽病	収穫30日前まで		または	1 樹当たり50~100 1 樹当たり50~100	100歳以上 必要な場合、
ぶどう] 【紫紋羽病 】	収穫21日前まで	1 🗆		1,000倍の場合	1,000倍液
もも	りんごのみ	収穫30日前まで		1,000倍	1 付当たり100~200% 土壌灌注	を処理する。
さくらんぼ		収穫30日前まで		500倍	1 樹当たり50~100歳土壌灌注	

- ※ 土壌灌注は対象樹だけでなく広範囲に実施した方が効果が高い。
- ※ 生育期間中でも紋羽病の影響で生育が思わしくない場合は土壌灌注を行う。なお、その場合、収穫前使用日数を厳守する。

系統別農薬一覧

○ 殺 身	3. 剤				
系	統 名	薬剤名	系 紛	充 名	薬剤名
(注意:魚	スロイド系 類に対する で極めて強い)	アグロスリド スロート スカウト アルスロト アーボイン アーボィィー アロディー アロディー MR.	有機リ	リン系	スミチオン ダイアノックス ヴェイア エルサン オルトラン オルトラン マラソン
ネオニコ	チノイド系	モスピラン ダントツ バリアード スタークル アクタラ マイヤー アルバリン ベストガード	カーバ>	くート系	オリオン デナポン バッサ ランネート
ジア	ミド系	フェニックス エクシレル サムコル (プレバソン パディート) テッパン	BT系	生菌	バイオマックス ファイブスター デルフィン エスマルク チューリサイド チューンアップ
IGR系	キチン合成阻害	アプロード アタブロン カスケード デミリン ノーモルト マッチ		死菌	トアロー

スピノシン系

スルホキシイミン系

ディアナ

トランスフォーム

脱皮ホルモン ロムダン

ウララ

パダン

吸汁阻害剤

ネライストキシン系

○ 殺菌剤(主と	:して糸状菌月	<i>∃)</i>			
系 統 名	薬剤名	予防•治療別	系 統 名	薬剤名	予防•治療別
EBI (エルゴステロール生合成阻害)	アンビル インリー フンファーウン スマネー ファッション ファック ファッション ファッション ファイン ファイン ファイン アクリー アクリー アクリー アクリー アクリー アクリー アクリー アクリー	予防治療剤	ストロビルリン系 (QoI)	アミスター ストロビー ファンタジスタ スクレア フリント (ナリア)	予防治療剤
ジカルボキシイミド系	ロブラール スミレックス	予防治療剤	有機銅剤	オキシンドー キノンドー ドキリン (オキシラン)	予防剤
ベンゾイミダゾール系	ベンレート トップジンM	予防治療剤	有機硫黄	アントラコール ジマンダイセン トレノックス ペンコゼブ デラン	予防剤
抗生物質	アグレプト マイコシールド バリダシン	予防治療剤	微生物剤	エコホープDJ ボトキラー	予防剤
SDHI	パレード フルーツセイ バー オルフィン カナメ	予防治療剤	EBI+SDHI (混合剤)	アクサー	予防治療剤

									殺		5	•				7			O,	_		Ţ÷			銀一覧表
2023年用)																									J A全農山形 生産資本 2022年11月30日
薬	割 名	ナ: 卵	シハダニ 幼虫成虫	リンゴハダ	= 感受性の 虫 低下実績		チャノ ホコリ ダニ ※1	サビダニ ※ 1	ポルト゚ー液 ・混用	りんご	おうとう	ŧ ŧ	ぶどう	なし	きゅうり		なす		いちご	メロン	かき	菊 (花き)	食用ぎく	ばら	
 ニサラバ	フロアブ	ル◎	00	000) 有り	(O)	×	×	×	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	-	1, 000	1,000	1, 000	1, 000	1, 000		1, 000	1, 000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果がある。 ・天教その他有用動物に対して影響が少ない。 ・ボルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 ・アリエッティと水和和、カルシウム剤・温用する場合、ダニサラパフロアブルを先に溶かす。 ・スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラパフロアブルは使用しない。 ・他に小粒栓果類、ビーマン、花き類・複聚種物等で登録あり。
ターマイト	トフロアブ	゚ル◎	0 0	000) 有り	(O)	0	×	×	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	1	2, 000	2, 000	2, 000 2	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	-	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ・ダニサラパフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。 ・ボルドー派との混用および14日以内のは複散布は効果が多るので避ける。 ・有袋栽培の洋なしに使用する場合、果実の業現が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。 ・ベスラン次前、アリエッティの水和刺と乗用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 ・有用昆虫(ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ)およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・他に小粒栓果類、食用ほおすき、りんどう、ビーマン等・ご登録あり。
`ニコング	フロアブ	ルム	0 0	Δ⊚	う 有り	(O)	×	×	×	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	_	-	3, 000	3, 000	3, 000	3, 000	2, 000	2, 000	_	2, 000	・ハダニの幼虫・成虫に対して効果がある。 ・天敵その他有用動物に対して影響が少ない。
ニゲッター	-フロアブ	゚ル◎		© © 4	△ 無し	(O)	0	0	×	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	1	ı	-	_	-	_	_	-	-	-	・ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 - 運効的だが、成虫には不発作用を示す。 - ボルドー港との同時散布および前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・新桐神長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合。以下の事項に注意する。 (1)豊水・新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 (2)有機リン利との同時散布および10日以内の近接散れば繁定(薬害を生しる恐れがあるので避ける。 - おうとうに使用する場合は、新精神長期に薬害を生じることがあるので、薬の硬化を持って使用する。 - キャベツ、はくさい、こまっな、ねぎ、ばらに対して薬者を生する恐れがあるので、切にある場合かからないように注意すること。 - 明花期の水間によれ対がかった場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。 - 明花期の水間に本剤がかかった場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。
コックフ	ロアブル	, ©	⊚ ×	00	有り (ナミハダニ)	(O)	×	〇 (殺卵)	×	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	-	2, 000	2,000	2, 000	2, 000	-	2, 000	-	2, 000	・成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。
イトコーネ	ネフロアブ	ルム	0 0	ΔΟ) 有り	(O)	×	0	×	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1,000	1,000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	-	-	・ミツバチ・蚕およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・ボルドー液との混用は避け、近接散布は前後 14 日以上あける。 なしに使用する場合。5月以前の使用は避ける。また、高温・乾燥時には薬害を避けるため使用しない。 ・小粒核果類、ミニトマト、ビーマン、食用ほおずきにも登録あり。
ロマイト		0	00	0 0	う 有り	(O)	0	0	0	2, 000 1, 000	1,000	- 1, 000	2,000	2, 000 1, 000	2, 000 1, 000	- 1, 500	2, 000 1, 500		親株床)	2, 000 1, 000	-	2, 000 1, 500	2,000	2,000	 30 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
テツフロ	アブル	0	0 0	× × :	く有り	0	0	0	×	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2,000	2, 000	-	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	・ぶどうは収穫60日前までの使用なので注意する。 ・蚕・ミツバチへの影響があるので、使用の際は注意する。 ・ハクサイ・ダイコン・きゅうり、なすの効苗期は楽書の恐れがあるので使用時は注意。
ラニカE ラニカ水		0	0 0	0 0	有り 有り	(O)	0	0	0	1, 000	1, 000	1, 000 1, 000	— (大粒種) 2,000	1,000	2,000	_	2,000	2,000	2,000 2	2, 000		1,000	_	2, 000	0 ・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。 (刺激が強い) ・サンマイト・ダニトロンは交差抵抗を示すので適用は避ける。 ・面に対して影響があるので奏楽にかからないようにする。 ・バラの射展開業に楽器が生じることがあるので棄剤がかからないようにする。 ・EWは応ぎ類・観楽無能がホーチョン、きくを除く7で登録あり。
ンマイト	水和剤	0	00	000	う 有り	(0)	0	0	0	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	-	-	-	-	-	-	1, 000	-	-	-	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。 (刺激が強い) ・蚕・ミツパチに対して影響があるので注意する。 ・ダニトロン・ビラニカは交差拡充を示すので連用は避ける。
ンマイト	フロアブ	ル								-	-	-	-	-	1, 000	-	-	1,000	1, 000	1, 000	-	1, 000	1, 000	-	・フロアブル剤は、ピーマン、えだまめ、食用ほおずきのコナジラミ類に登録あり。 ・水和剤はすも、キウイフルーツに登録あり。 ・フロアブル剤は、キュウリ・メロンに使用する際は極端な高温期や幼苗期は新葉に薬害を生じる恐れがあるため避ける。
ニトロン	フロアブ	ルゥ	0 0	0 0	割 有り	(O)	0	0	0	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	2, 000	1, 000	2, 000	1,000	1,000	1, 000	1, 000	1, 000	_	1, 000	- 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。 (刺激が強い) ・サンマイ・ドジューは文差抵抗を示すので連用は避ける。 30 石灰破黄剤との混用は避ける。 - 張に長期間無性があるので桑葉にかからないように注意する。 - 花卉類では花に薬害を生じる場合があるので、花や漱に薬剤が付着する恐れのある時期には使用を避ける。 - キウイフルーツ、うめ、ミニトマト、ほうれんそう、ピーマン、花を類・観薬植物にも登録あり。
ネマイト	フロアブ	ル ()	0 0	0 0	う 有り	(O)	0	0	×	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	1, 000	-	1, 000	1,000	1,000	1, 000	-	1, 000	1, 000	-	・アリエッティCと混用する場合は、カネマイトを先に希釈し混用する。 ・天敞・有用昆虫に対する影響が少ない。 ・ボルド・ぶなどのアルカリ性の強い薬剤との混用は避ける。 ・ぶどうに使用する場合、落在20日以降強掛け前までの散布は果粉溶脱や汚れを生じることがあるので注意する。 ・うめ、すもも、うり類(活物用)、ピーマンにも登録象力。
゛ニオーテ	フロアブ	ル。	0 0	0 0	無し	(O)	×	×	×	1, 000	2, 000	-	-	2, 000	-	-	2, 000	2,000	2, 000	-	-	2, 000	-	2, 000	・天敵・有用生物への影響が少ない。 10 ・銅を含む製剤との混用および近接軟布で効果が低下する恐れがあるため、以下に気を付ける。 10 ・湿用を達ける ②ダーオーテ散布から飼剤散布までは10日以上間隔をあける ③銅剤散布後は散布しない。 ・小粒核果類への登録あり。
カリタッ	チ乳剤	×	00	× 0 0	無し	(0)	(0)	(Δ)	×	2, 000	2, 000 ~ 3, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000 ~ 3, 000	~	1,000	~	2, 000 2 ~ 3, 000 3	~	2, 000	-	2, 000 ~ 3, 000	_	- 本剤は害虫を窒息させる気門封鎖であるため、卵には効果がなく、また残効性が期待できないので、5~7日間隔での連続2回散布や、他剤とのローテーション散布を ・本剤は散布液が直接害虫にかからないと効果がないため、害虫にちらなくかかるよう、業の表裏へていねいに十分散布する。 ・最新剤は素音と対なた態では、過速せ、茶褐色の薬害(イテゴの果実等)が発生することがあるため、薬液の乾きやすい時に登録範囲内の少ない使用液量で散布する ・高温時や日初強い時間等または表態の差が激しい時期の散布は避ける。 ・おうとうでは果実質に房や黄色品種(月山鯖など)は果実に薬善を主しる恐れがあるので使用を避ける。 ・日本なしに使用する場合、果実に薬者を生じるなそれがあるので、使用適度を設守し、特に効果剤の散布はさける。

令和5年 さくらんぼ病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用 (薬量/水			農薬使用基準 収穫前使用日数	里山田	注意事項	月日	防除実績(メモ)
		(栄星/小	1 U U F/W/		使 用 回 数 発芽前まで	(10a)			
	カ イ ガ ラ ム シ 類――	① スプレーオイル	50倍	(2 ١٧)	元子則より - 一 一		(1)マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天 の続く時に使用する。		
休眠期	福色せん乳病――	② ムッシュボルドーDF	500倍	(200g)	休眠期	350流	(2) 灰星病の発生を防止するため休眠期中に全面耕うんし、 地表面の乾燥をはかる。		
ראיזיייוא	19 L C 70 31 73			(2005)		- 000 F/I	(3)灰星病防除のため樹上のミイラ果を除去し埋没する。		
	カイガラムシ類幼虫――	③ アプロードフロアブル	1,000倍	(100ml)	7日前まで 2回以内		(4)カイガラムシ類の発生の多い園地は、太枝にブラシかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。		
	大玉生産と摘果作業の) 労力削減のため、3月中旬〜4	1月上旬に摘芽を行	う。	1				
	幼果菌核病・灰星病	 ① トレノックスフロアブル	500倍	(200ml)	21日前まで		 (1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ 防除を終了する。		
開花直前	褐色せん孔病・炭疽病 ハマキムシ類				5回以内 前日まで	450%		/	
	ケムシ類	② バイオマックスDF	2,000倍	(50g)					
	幼果菌核病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_		 (1)前年幼果菌核病の多い園地では散布時期が遅れない様に注意 する。		
満開期	褐色せん孔病				前日まで	500況	(2) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取って キズの癒合促進のため、トップジンMペーストを塗布する。 (3回以内)		
平年 佐藤錦 4月29日頃	灰 星 病	② ナリアWDG	2,000倍	(50g)			(3) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ 防除を終了する。		
	黒斑病・炭疽病			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3回以内		(4) 前年、炭疽病の発生した園地ではオーソサイド水和剤80 800倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。		
前回散布	図	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)		500流	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ 防除を終了する。		
7日後		② オーソサイド水和剤80	800倍	(125g)	5回以内	300 Fil			
	<u> </u>	I マメコバチ等の訪花昆虫を	保護するため、 <i>り</i>	んごの花		l 殺虫剤(ET剤を除く)の散布は行わない。		
		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)			(1) 灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期 以降園地の草刈を徹底する。		
前回散布 7日後	灰 星 病 黒 か び 病	② ロブラール水和剤	1,000倍	(100g)	前日まで 3回以内	500ki	(2) ハマキムシ類の発生が多い園地では、フェニックス	/	
(5月中旬)	オウトウショウジョウバエ	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで	-	フロアブル4,000倍(前日まで2回以内)を加用 散布する。		
	カーメーム シー類 フェロモン剤系	 	【 コスカシバ対		1回 シバコン/・!	<u> </u> 50∼1	00本/10a 】	/	
ハダニ対策	·	草剤を使用するか、ダニ剤散布			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	<u> </u>			
	灰 星 病 ——	① スコア顆粒水和剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内		(1) 早生種の収穫7日前までに散布する。 (2) この回以降収穫が終わるまで展着剤は使用しない。 (3) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液		
回散布10日後	ショウジョウバエ類	・② バイスロイドEW	4,000倍	(25ml)	7日前まで	500流	を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布 する。		
(5月下旬) 被覆前散布	オウトウハマダラミバエ		倍数注意!	(23111)	2回以内	- 300 Fil	(4) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
	ハ ダ ニ 類 ――	③ ダニコングフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 1回		IN JOHN TO JUST A STORY		
ショウジョ	ウバエ耕種的対策	摘果が遅れた場合には、持果実は、適期収穫を行い、				3	- バイスロイドEWは、さくらん ぼのみ4,000倍登録	\subseteq	
) 病虫害果・キズ果・過熟!					埋める)する。		
	灰 星 病 ——	① パレード15フロアブル	2,000倍	(50g)	前日まで 2回以内				
6月上旬	オウトウショウジョウバエ		2,000倍	(50g)	前日まで	500%	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	/	
	カ メ ム シ 類	グラーブル頼和小石月	2,000	(30g)	2回以内				
	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐 色 せ ん 孔 病	① ナリアWDG	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	5 0 0 Hay	(1)ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ) ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、		
6月中旬	オウトウショウジョウバエ	② エクシレルSE	2,500倍	(40ml)	前日まで	- 500流	シャルドネ)に薬害がでるので注意する。		
	八マキムシ類 灰星病・炭疽病・黒斑病				3回以内 前日まで				
6月下旬	褐色せん孔病	① オンリーワンフロアブル	2,000倍	(50ml)	3回以内	- 500ki	(1)アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性 が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶 対に使用しない。		
	オウトウショウジョウバエ	② アーデントフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内	2 2 190	/Jに以口 C/Q V 10		
	灰星病・炭疽病・黒斑病	・① ナリアWDG	2,000倍	(50g)	前日まで				
7月上旬	褐色 せん 孔 病 オウトウショウジョウバエ	- , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2,000		3回以内 前日まで	500流		/	
(晩生種)	ハマキムシ類	② エクシレルSE	2,500倍	(40ml)	3回以内				
		せん孔病・炭疽病対策として 	、雨よけハウスの	D被覆を外	1	1	布を行う。		
	せ ん 孔 病 一	① オキシラン水和剤	600倍	(166g)	収穫終了~落葉期まで 3回以内		(1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液 を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布		
収穫直後	ア ブ ラ ム シ 類ハ マ キ ム シ 類	② ダイアジノン水和剤34	1,000倍	(100g)	14日前まで	500烷	す る。	/	
	ウメシロカイガラムシ丿		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		2回以内 前日まで	1			
	ハ ダ ニ 類	③ ダニゲッターフロアブル	2,000倍	(50ml)	10				
7月下旬		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	 収穫終了~落葉期まで	500kk			
. \alpha \cdot \eta	せ ん 孔 病 ――	② オキシラン水和剤	600倍	(166g)	3回以内	J J J FII			
		@ ++>(=>(-t/10+d)	0001	(400)	収穫終了~落葉期まで		(1) 褐色せん孔病の多い場合は Cボルドー66D 40倍を単用散布する。 (2) ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト乳剤		
	せん 孔 病 ──→	・① オキシラン水和剤 	600倍	(166g)	3回以内		1,000倍を単用散布する。(7日前まで1回、展着剤は 加用しない) (3)この回以前にアプロードフロアブルを2回使用した場合は		
8月上旬					7日前まで	500流	使用しない。 ※ウメシロカイガラムシ重点防除時期(第2回孵化期)	/	
	カイガラムシ類幼虫	② アプロードフロアブル	1,000倍	(100ml)			ウメシロカイガラムシの発生が多い園地では今回散布 7日後にバリアード顆粒水和剤 4,000倍を追加散布		
					2回以内		する。 (前日まで2回以内) (1) 枝の枯死や樹脂の漏出が多い園地では、9月上旬から中旬		
	コスカシバ				前日まで		にICボルドー66D 40倍を散布する。 さらに、落葉後(11月上旬から12月上旬)に石灰硫黄合		
00-4-			1 0 0 0 15	(05 '		E 0 0 11			
9月上中旬	ハマキムシ類	① フェニックスフロアブル	4,000倍	(25ml)	2回以内	500流	剤10倍又は、ICボルドー66D 40倍を散布する。 (2)枝幹に十分散布する。 (3)灰星病の発生が多い園地では落葉後清耕し、越冬菌の密度	/	

令和5年 もも病害虫防除暦

・人てんどう

	T	で加り牛	- 			门际			<u> </u>
防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・ (薬量/水100)			農薬使用基準収穫前使用日数使用 回数	(102)	注意事項	月日	防除実績(メモ)
		ー 力削減の為、開花前までに摘らいを行う。)						
	せん孔細菌病に侵された		50倍	(الرابع)	発芽前まで		(1) 前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去	Τ	
発芽前まで	せん孔細菌病				— 7日前まで	2504	する。		
平年発芽 3月23日頃	縮葉病・灰星病	◆ ② トレノックスフロアブル 		(200ml)	5回以内 14日前まで	350流			
	カイガラムシ類幼虫—— 	• ③ アブロードフロアブル 『時期(4月20日頃)【ハマキムシ・3	1,000倍		3回以内) — . +#. n	MM4 20 ± /4 0 a l		
開花前	せん孔細菌病	団規(4月20日頃) (バマキムシ・3 ① I Cボルドー412		(3.3 kg)	カ対策はコンプ -	350流		/	
		□ 病斑は4月下旬から7月上旬頃までき	発生するので 、		 別発病枝は見	しつけした	 『い基部から剪除し、癒合促進のためバッチレー	トを	塗布する
せん孔細菌! また、スピ	病は葉が傷み病気にかかり ードスプレーヤで防除する	ク易くなるので防風ネットを設置する る場合、風量を葉が傷まない程度に	る。 客として防除す	する。(生育	新間)				
	灰星病・黒星病うどんこ病・炭疽病	① アビオンーE(展着剤)	2,000倍	(50ml)	前日まで				
	ホモプシス腐敗病 せん 孔 細 菌 病 —	* ② オンリーワンフロアブル 	2,000倍	(50ml)	3回以内 60日前まで	350ki			
	ハマキムシ類・ケムシ類	▶ ③ アグレプト水和剤 	1,000倍	(100g)	2回以内				
	モモハモグリガ・コスカシバ シ ン ク イ ム シ 類	④ フェニックスフロアブル	4,000倍	(25ml)	前日まで 2回以内				
	ミツハ	「チ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護① アビオン−E(展着剤)	するにめ、り 2,000倍	んこの化力 (50ml)	終わるまで殺 -	虫剤(B I 	剤を除く)の散布は行わない。		
前回散布	灰星病・黒星病せん孔細菌病	② トレノックスフロアブル	500倍	(200ml)	7日前まで 5回以内				
7日後	せん 孔 細 菌 病 ――	③ マイコシールド	2,000倍	(50g)	21日前まで 5回以内	400%		/	
	ア ブ ラ ム シ 類 カメムシ類・シンクイムシ類		2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	-			
フェロモン剤設置					150本/10a	 (すでにコン	 フューザーMM、N150本/10aを設置した場合は必要ない] 	/	
	せん孔細菌病	① アビオン−E(展着剤) ・② デランフロアブル	2,000倍	(50ml) (166ml)	7日前まで				
071.0	灰星病・ホモプシス腐敗病 カ イ ガ ラ ム シ 類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			4回以内	400 ki		/	
(5/25頃)	シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	▶ ③ サイアノックス水和剤	1,000倍	(100g)	21日前まで 3回以内				
	黒 星 病 灰星病 水 炭疽病	• ① オンリーワンフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで				
	ホモプシス腐敗病		2,0000	(00,117)	3回以内	<u> </u> -	さくらんぼ園地への飛散に注意		
6月上旬	せん 孔 細 菌 病 ――	② マイコシールド	2,000倍	(50g)	21日前まで 5回以内	400%		/	
	ア ブ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類	▶ ③ バリアード顆粒水和剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内				
	せ も ハ モ グ リ ガ/ せ ん 孔 細 菌 病	・① デランフロアブル	600倍	(166ml)	7日前まで		(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強い		
6月中旬	灰星病・ホモプシス腐敗病 ア ブ ラ ム シ 類			(1001117)	4回以内	400 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
	シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	② スカウトフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 5回以内		さくらんぼ園地への飛散に注意		
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤 灰星病・黒星病	ー 剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草)	刈を実施する。		前日まで	1	/	1	
6月下旬	ホモプシス腐敗病	① ナリアWDG	2,000倍	(50g)	2回以内	-	(1) せん孔細菌病が多い園地では、ナリアWDGをデランフロアブル600倍(7日前まで4回以内)に代えて散布する。		
	アブラムシ類・カイガラムシ類 モ モ ハ モ グ リ ガ	▶ ② モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	400%	(2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ) ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、 シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/	
	シンクイムシ類・カメムシ類 ハ ダ ニ 類 一 類	③ ダニコングフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 1回		(3) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液 を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。		
	せん 孔 細 菌 病 灰星病・ホモプシス腐敗病	① デランフロアブル	600倍	(166ml)	7日前まで 4回以内		(1) デランフロアブルは、果実に汚れがでる場合があるので 乾きやすい時間帯に使用する。		
7月上旬	シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	• ② エクシレルSE	2,500倍	(40ml)	前日まで	400%	さくらんぼ園地への飛散に注意	/	
	(ハマキムシ類)				3回以内 7日前まで				<u> </u>
7.D.d.	せん 孔 細 菌 病 ──→ 灰 星 病 ・ 黒 星 病			(200ml)	4回以内 前日まで	-	(1) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて 強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
7月中旬 (袋掛け前)	ホモプシス腐敗病	・② スクレアフロアブル 	3,000倍	(33m1)	3回以内	400%		/	
(2011) / 133/	シンクイムシ類	③ アーデントフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内				
	カメムシ類・ハダニ類 灰星病・黒星病	• ① ベルクートフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで				
	ホ モ プ シ ス 腐 敗 病人アプラムシ類・カイガラムシ類		2,0000	(001117)	3回以内				
7月下旬	モ モ ハ モ グ リ ガ シンクイムシ類・カメムシ類	▶ ② モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	400%		/	
	ハ ダ ニ 類 ――	③ マイトコーネフロアブル	1,000倍	(100ml)	前日まで 1回				
8月上中旬	灰星病・黒星病・炭疽病 ホモプシス腐敗病	① オンリーワンフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内				
(8/10頃)	シンクイムシ類 モモハモグリガ	◆ ② エクシレルSE	2,500倍	(40ml)	前日まで	400%		/	
	(ハマキムシ類)				3回以内	中歩オフ			
	灰星病		した園地でも、		ン類の防除を _{前日まで}	大心りる。	•		
8月下旬 (晩生種)	黒星病	→ ① アミスター10フロアブル 	1,000倍	(100ml)	3回以内	400 4%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。		
	ア ブ ラ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	• ② スカウトフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで	400 611	(2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強い ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
	シンクイムシ類 灰星病				5回以内 前日まで				-
9月上旬	黒星扇りンクイムシ類	→ ① インダーフロアブル 	5,000倍	(20m1)	4回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため降雨前に散布する。	/	
(晚生種) 	モモハモグリガ	• ② エクシレルSE	2,500倍	(40ml)	前日まで 3回以内			_	
9月中下旬	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病	① ベルクートフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内	400 ki		/	
(晩生種)	シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	▶ ② ノーモルト乳剤	2,000倍	(50ml)	前日まで 2回以内				
	この防 	5除以降、晩生種には灰星病対策とし ↑ アビオンーE(展着剤)	てパレード15 2,000倍	5フロアブ/ (50ml)	レ2,000倍 -	前日まで	(1) Cボルドー412 30倍を使用できない園地では		
収穫後	せん 孔 細 菌 病 ー , モ モ ハ モ グ リ ガ)	② / Cガン と (成首用)② Cボルドー412	30倍	(3.3 k g)	_	400 ki	トレノックスフロアブル500倍(7日前まで5回以内)を必ず散布する。		
(9月上旬以降)	コスカシバー		4,000倍	(25ml)	前日まで	→ ∪0€€	(2) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防		
	<u>シンクイムシ類</u>	① アビオンーE(展着剤)	2,000倍	(50ml)	2回以内		除を行う。		
(前回散布14日後)	せん 孔 細 菌 病――	② ICボルドー412	30倍	(3.3 k g)	_	400%	(1) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気 タネ起に注意し会同等周示が予想される場合は事前に防		
		① アビオンーE(展着剤)	2,000倍	(50ml)	_	4.0.011	象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防 除を行う。		
(前回散布14日後)	せん 孔 細 菌 病――	▶ ② ICボルドー412	30倍	(3.3 k g)		400%		/	

令和5年 西洋なし病害虫防除暦



					16 5	***		1	
防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用 (薬量/水			農薬使用基準収穫前使用日数	(10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
	カ イ ガ ラ ム シ 類 ――	① スプレーオイル	50倍	(2 \n)	使 用 回 数 発芽前まで —	., ., .,			
発芽前まで	うどんこ病・黒星病	 ■ ② トップジンM水和剤	1,000倍	(100g)	前日まで	350流	(1)マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ 好天の続く時に使用する。(2)薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。		
7 0 2 3 13 3 6 7 2	胴枯病・腐らん病具輪紋病病	③ アプロードフロアブル	1,000倍		6回以内 30日前まで	_	(3) 5月中旬まで輪紋病のいぼ皮病斑は必ず削り取り トップジンMペースト(3回以内)を塗布する。		
···	カイガラムシ類幼虫――	※ 対 プロ・			2回以内 常日頃から園は	 を見て回			
胴 枯 病 対 策	■病患部を少しでも残すと	再発するので、発病部を発見し を保ち枝の更新に努め、明るい	たら剪除し、切れな	ない枝は健全	部を含めて大き	きく削り取	り、トップジンMペースト(3回以内)	/	
		制設置時期(4月20日頃) 、黒斑細菌病の発生がみられ					100本/10a 】 を散布する。	/	
満開直後	黒星病・黒斑病輪紋病病	① オキシンドー水和剤80	1,200倍	(83g)	3日前まで 9回以内		(1)訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。		
(100%開花時)	ハマキムシ類	② フェニックスフロアブル	4,000倍	(25ml)	前日まで 2回以内	- 400ki	るだけ別所を終ける。		
		・マメコバチ等の訪花昆虫を	保護するため、	りんごの花		设虫剤(l	BT剤を除く)の散布は行わない。		
落花1週間後	う ど ん こ 病 黒 星 病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	-	_	(1) 胴枯病の萎凋死花そうや、枯死枝は病部を確認し、 徹底して取り除き処分する。		
(5月中旬)	胴枯病・腐らん病 輪 紋 病	② トップジンM水和剤	1,000倍	(100g)	前日まで 6回以内	400%	(2)訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできる だけ防除を終了する。	/	
	アブラムシ類・カメムシ類 シンクイムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内				
5.575	黒星病・黒斑病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_		(1)輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので散布間隔 をあけないよう7月下旬まで枝幹にも十分散布する。		
5月下旬 (5/25頃)	ハマキムシ類 アブラムシ類	② オキシラン水和剤	600倍	(166g)	3日前まで 9回以内	5001%		/	
	シ ン ク イ ム シ 類 クワコナカイガラムシ	③ サイアノックス水和剤	1,000倍	(100g)	45日前まで 3回以内				
仕	上げ摘果は4頂芽に1果を目 う ど ん こ 病	安とし、落花後40日(6月上旬)	ぐらいまで終わす。 10,000倍		て2〜4番目の集 	実を残す。			
	黒星病	① アイヤーエース(展着剤) 	<u> </u>	(10ml)	前日まで		(1) この回以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除 時期であるので、防除間隔があかないようにする。 (2) 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に		
6月上旬	輪 紋 病		1,000倍	(100g)	6回以内 前日まで	500流	防除を行う。 (3) さくらんぼに隣接している園地では、トップジンM 水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍		
	ア ブ ラ ム シ 類	③ バリアード顆粒水和剤	2,000倍	(50g)	3回以内		(前日まで3回以内)を散布する。		
	胴 枯 病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10m1)	_	-			
6月中旬	+	② ベンレート水和剤	2,000倍	(50g)	前日まで 4回以内	500%			
	黒星病	芸効を体のまるか、パー効果を			4回以内				
ハダニ対策	黒斑病	草剤を使用するか、ダニ剤散布4 			前日まで		(1)アブラムシ類の発生の多い園地では、ウララDF 4,000倍(14日前まで2回以内)を加用散布する。		
6月下旬	黒 星 病 病	① ナリアWDG	2,000倍	(50g)	3回以内		(2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ) ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、 シャルドネ)に薬害がでるので注意する。		
	ア ブ ラ ム シ 類 ハダニ類・カメムシ類	② アーデントフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内	500%	(3) アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので、養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
別回散布10日後	∮ シンクイムシ類∫		0.000/#	(50.1)	前日まで	_	輪紋病(胴枯病)対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、ナリアWDGに代えて オキシラン水和剤 600倍		
*** 大松 和 文川井/		(3) ダニコングフロアブル 	2,000倍	(50ml)		37	(3日前まで9回以内)を散布する。	+ #h **	かうフ
※ 色 機 剪 削 形	対布後すぐに降雨があった場 黒 星 _病	場合	170場合は、丸温。	<u>250以上の</u> (50ml)		10CCt	に、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合 (1) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン	も財和を	さ控える
7月上旬	黒 斑 病 輪 紋 病 カメムシ類・アブラムシ類		600倍	(166g)	3日前まで	500 Ki	水和剤をファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍 (前日まで3回以内) に代えて散布する。	/	
	シンクイムシ類			(50g)	9回以内 前日まで	-			
	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類丿		2,000倍	(308)	2回 いゆ				
	黒星病	① アビオンーE(展着剤)	2,000倍	(50g) (50ml)	3回以内				
7月中旬	黒斑病病	① アビオンーE(展着剤)② オキシラン水和剤			— 3日前まで	500 ki		/	
7月中旬	黒 斑 病 輪 紋 病 ケ ム シ 類 シンクイムシ類		2,000倍	(50ml)	ー 3日前まで 9回以内 前日まで	500ki		/	
7月中旬	黒 斑 病 病 が 病 が が が が が が が が が が が が が が が	② オキシラン水和剤	2,000倍	(50ml)	— 3日前まで 9回以内	500 Hi	(1)サイハロン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い	/	
	 黒 斑 病 病 病 病 病 病 病 が か が 数 が が が が が が が が が が が が が が が が	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10	2,000倍 600倍 2,500倍	(50ml) (166g) (40ml)	- 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内		(1) サイハロン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
7月中旬	 無輪	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1〇 ① アビオンーE(展着剤)	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml)	 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内 3日前まで	500 ki		/	
	 無 斑 病病 が ね か 類 カ イ ム シ 類 エ マ キ ム シ 類 エ 安 病病 素 素 病病 カ イ ム シ 類 	② オキシラン水和剤③ サムコルフロアブル10① アビオンーE(展着剤)② オキシンドー水和剤80	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g)				/	
	黒輪 放	 ② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10 ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤80 ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル 	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g)			ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、		
7月下旬	黒輪 斑紋 ケムシシ類類 ケンマキムシ類類 黒黒輪シンマキムシシ類類 ・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシ類類 ハアブラムシ類・カメムシの類類 ハアブラムシ類・カメムシの類類 ハアブラムシ類・カメムシの類別 ハアブラムシ類・カメムシの別類 ハアブラムシ類・カメムシの別類 ハアブラムシ類・カメムシの別類 ハアブラムシ質・カス・カメムシの別類 ハアブラムシ質・カス・カメムシの別類 ハアブラムシ質・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・カス・	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10 ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤80 ③ サイハロン水和剤	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g)	- 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内 - 3日前まで 9回以内 7日前まで 3回以内 前日まで 1回		ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
7月下旬	 黒輪	 ② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10 ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤80 ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル 	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g)	- 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内 - 3日前まで 9回以内 7日前まで 3回以内 前日まで 1回 3日前まで	- 500 ¦ii	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃)	 黒輪 か シ シ シ 類 類 類 類 類 類 類 類 類 類 類 類 類 類 素 病 病 類 類 類 類	 ② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10 ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤80 ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml)	- 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内 - 3日前以内 7日前よ内 7日前よ内 7日前まで 1回 3日まで 9回以内 前日まで 9回日ま以内 前日まで 9回日まで 9回日まで 9回日まび 9回日まで	- 500 ¦i	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬	 黒輪 か か が が が が が が が が が が が が が が が が が	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル10 ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤80 ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルSE ① ナリアWDG	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍 600倍 2,500倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml)	- 3日前まで 9回以内 前日まで 3回以内 - 3日前以内 7日前よ内 7日前よで 3回りまで 1回 3日前まで 9回以内 前日まで 9回以内	- 500 ¦i	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬	 黒輪 か か が が が が が が が が が が が が が が が が が	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルS E ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml)	- 3日前まで 9回は内 前日以内 前日日以内 - 3日日以内 7日前以古で 3日前以古で 1日 3日日 で 9回日以 ま以内 前日日 日日	500 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬 (8/25頃)	 黒輪ケシハ黒黒輪シハアハ 黒輪シカムクキ星斑紋イムカンニ カキ類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルS E ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース(展着剤)	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍 2,500倍 2,000倍 2,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml) (50g) (10ml)	- 3日前まで 9回は内 前回は内 3回日ま以内 - 3日前以はま内 7日前以ま内 7日回日まで 3日前は口 3日前は内 前日日口 3日日日口 3日日は口 3日日は内 前日日は内 前日はより 前日はより 前日はより 前日はより 前日はより 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は 1日は	500 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬	 黒輪ケシハ黒黒輪シハアハ 黒輪ケシハ黒黒輪シハアカニ エ	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルSE ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O	2,000倍 600倍 2,500倍 1,200倍 1,200倍 1,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 2,000倍 10,000倍 1,200倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml) (50g) (10ml) (83g)	- 3日前よで 9回ま成内 前3回 - で 9回日は以 - 前以ま内 7日回前以ま内 7日回前以まの 1 前 回 日回 日	500 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を 散布する。 (1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬 (8/25頃)	 黒輪ケシハ黒黒輪シハアハ 黒輪シカム クキ 里斑紋イムカメニ スクキ類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病類類類病病病 	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE(展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルS E ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース(展着剤)	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 2,000倍 1,000倍 2,500倍 2,000倍 2,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml) (50g) (10ml)	- 3日前まで 9回日ま以内 前回日は内 - 3日前以ま内 - 3日前以ま内 7日前以ま内 1日回 3日前 以内 1日回 日回 日回 日回 日日回 日日回 日日回 日日回 日日回 日日 以まり で 3日日 以まり で 3日日以まり で 3日前以内 で 3日前以内	500 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を散布する。 (1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬 (8/25頃)	黒輪ケシハ黒黒輪シハアハ 黒黒輪シハ スクキ 星斑紋 イ 4 星斑紋 イ 4 異 類 類 病 病 病 類 類 類 病 病 病 類 類 病 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 病 病 類 類 素 病 素 類 類 素 病 素 類 類 素 病 素 類 類 素 素 シ ハ 黒 輪 シ ハ 黒 輪 シ ア エ エ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルSE ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ アグロスリン水和剤	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 1,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,000倍 1,200倍 1,200倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (166g) (40ml) (50g) (10ml) (50g) (10ml) (83g)	- 3日前まで 9回日以 前回日以 一 3日回日以 一 3日回日の 7日前以まで 7日前以まで 11前以 11前以 11日回日の 11日の 11	500 ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を 散布する。 (1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬 (8/25頃) 9月上旬	黒輪ケシハ黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハア ハ 黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハ 黒輪シハ 黒	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルS E ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ アグロスリン水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② アグロスリン水和剤 ① アイヤーエース (展着剤)	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 1,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,000倍 1,200倍 1,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (50g) (10ml) (83g) (10ml) (83g)	- 3日前まで 9回日以 前回日以 1日回日以 1日回日日以 1日回日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	500ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を 散布する。 (1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 有機銅を含む剤(オキシンドー水和剤80、オキシラン		
7月下旬 8月上中旬 (8/10頃) 8月下旬 (8/25頃) 9月上旬	黒輪ケシハ黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シハ 黒輪シ ハ 黒輪シ ハ 黒黒輪シハア ハ 黒黒輪シ ハア ハ 黒黒輪シ ハ 黒輪シ ハ 黒 輪 シ ハ 黒 輪 シ ア 黒輪シハ カム カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ	② オキシラン水和剤 ③ サムコルフロアブル1 O ① アビオンーE (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ サイハロン水和剤 ④ マイトコーネフロアブル ① オキシラン水和剤 ② エクシレルSE ① ナリアWDG ② バリアード顆粒水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O ③ アグロスリン水和剤 ① アイヤーエース (展着剤) ② オキシンドー水和剤8 O	2,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 1,200倍 1,000倍 600倍 2,500倍 2,000倍 2,000倍 1,200倍 1,200倍 1,000倍	(50ml) (166g) (40ml) (50ml) (83g) (50g) (100ml) (50g) (10ml) (83g) (10ml) (83g) (100g)	- 3日前以ま内 で 9回日回	500ki	ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、 コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を 散布する。 (1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強い ので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (1) 有機銅を含む剤(オキシンドー水和剤80、オキシラン		

令和5年 りんご病害虫防除暦 (No1)



	対象病害虫	薬剤名・混用 (薬量/水			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (1 O a)	注意事項	月日	防除実績(メモ)
		散布前までに輪紋病の原因となる	る、いぼ皮病斑を	けずり取りト		-ストを塗	壁布する。(3回以内)	/	
	カイガラムシ類		50倍	(2ば)	発芽前まで		(1)マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ		
発芽直前	ハ ダ ニ 類 <i>J</i>					-	好天の続く時に使用する。		
平年ふじ発芽 4月3日頃	(黒星病)	── ② ベフラン液剤25	1,000倍	(100ml)	6回以内	350流		/	
	カイガラムシ類幼虫 -	→ ③ アプロードフロアブル	1,000倍	(100ml)	30日前まで				
里昆底动笔人	1.で雨前勘布		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	ノトゲロナブ	2回以内	5/+-1-4	分量(400L以上/10a)	当	らする
無生物が深と								日入「	ه ره. ه دا
展葉した頃	斑点落葉病 (モニリア病)・輪紋病 褐斑病・炭疽病	→ ① I Cボルドー412	30倍	(3. 3kg)	_	400Ki	(1) I Cボルドー412を散布できない園地では、 アイヤーエース10,000倍にパスポート顆粒水和剤 1,000倍(45日前まで3回以内)を 加用散布する。	/	
**************************************		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_	4.00 Hw	(1) ストライド顆粒水和剤は、開花前までの		
前回散布了日後雨前散布	黒星病	② ストライド顆粒水和剤	1,500倍	(66g)	開花前まで 2回以内	400%	総使用回数を2回以内とする。		
(יוי אמנונוו)		 置時期(4月20日頃)【	ナシヒメシン・			 ソ50~		/	
- 摘花剤の散布 :		花時、えき花芽を対象として2回目を散					0~150倍(2回以内)を300~600烷/10a		
	めしべに	こ充分薬液がかかるように散布 (中	心花の結実が良好	と思われる場	場合に使用する) 。SS	で散布する場合はファンを止めて散布する。		
特別散布	斑点落葉病				30日前まで				
防除間隔が空く場合	黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病	→ ① トレノックスフロアブル	500倍	(200ml)		4001%		/	
雨前散布	炭疽病 • 赤星病				5回以内				
	黒星病・褐斑病				前日まで		(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできる		
	黒点病・うどんこ病 斑点落葉病・赤星病	── ^① カナメフロアブル	4,000倍	(25m1)	3回以内		だけ防除を終了する。		
	斑 点 落 葉 病					_			
	黒星病・褐斑病	 	500倍	(200ml)	30日前まで	4001%		/	
5月2日頃	黒点病・輪紋病		3001	(200111)	5回以内	7000			
	炭疽病・赤星病√ハマキムシ類					-			
	シンクイムシ類-	→ ③ フェニックスフロアブル	4,000倍	(25ml)	前日まで				
	キンモンホソガ				2回以内				
₹						R剤(B ⁻	「剤を除く)の散布は行わない。		
	うどんこ病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)		-	(1) 腐らん病の発生している園地では、トップジンM 水和剤1,000倍(前日まで6回以内)を必ず散布 する。		
	赤星病•斑点落葉病	→ ② スコア顆粒水和剤	3,000倍	(33g)	3回以内	4001%	9 0。 (2) ハマキムシ類の発生が見られる園地では、バイオマックスDF2,000倍を加用散布する。	/	
80%落花時 雨前散布	黒点病・モニリア病	→ ③ ジマンダイセン水和剤	600倍	(166g)	30日前まで		(前日まで、一) (3)マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので		
<u> </u>	黒 星 病 ・ 炭 疽 病 - よ「ふじ」「紅玉」を		5 1200倍	(0 <u>0</u> 0)	3回以内		注意する。 		
腐らん病		これがにてフログラバンが作品の)を10a当た	NAOC			
	マロカからほんんだ	まに注音して周州を目て同り 日期							いろ提合
		病に注意して園地を見て回り、早期 限元から切り取り処分)する。枝腐	 発見に努める。乳	発病部を発見			を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる		いる場合
<u> </u>			 発見に努める。乳	発病部を発見					ごいる場合
	は、樹全体を処分(木 黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病	限元から切り取り処分)する。枝腐 	発見に努める。 乳の かんしゅう かんじゅん かんじゅん しゅん かんしゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん	終病部を発見 1分する。 (10ml)	したら病患部は - 30日前まで				ごいる場合
n . 前回散布	は、樹全体を処分(木黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤	発見に努める。 らんは切り取り処 10,000倍 600倍	能病部を発見 記分する。 (10ml) (166g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内		を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので		ごいる場合
前回散布 7日後	は、樹全体を処分(木 黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤)	発見に努める。	能病部を発見 記分する。 (10ml) (166g)	したら病患部は - 30日前まで	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので		ごいる場合
防 前回散布 7日後	は、樹全体を処分(木黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落 葉病 黒点病・モニリア 病病 関盟 屋 病・腐らん 別 異星病・ のの スティック スティッグ スティック	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤	発見に努める。 らんは切り取り処 10,000倍 600倍	能病部を発見 公する。 (10ml) (166g) (100g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので		ごいる場合
防 前回散布 7日後 雨前散布 除	は、樹全体を処分(木 黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病 黒 星病・褐斑病 黒 星病・ 腐らん 病 アプラムシ類・カメムシ類 リンゴ ワ タ ム シ	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤	発見に努める。 らんは切り取り処 10,000倍 600倍 1,000倍	能病部を発見 公する。 (10ml) (166g) (100g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので		ごいる場合
防 前回散布 7日後 雨前散布 除	は、樹全体を処分(木黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落 葉病 黒点病・モニリア 病病 関盟 屋 病・腐らん 別 異星病・ のの スティック スティッグ スティック	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース (展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ④ モスピラン顆粒水溶剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍	統病部を発見 公分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にお。 (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に		ごいる場合
が 前回散布 7日後 雨前 5月下 旬	は、樹全体を処分 (木) 場合 (本) 場合	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍	統病部を発見 公分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる(1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。		ごいる場合
が 前回散布 7日後 雨前析 除 5月下旬 (落花15日後)	は、樹全体を処分 信息 は、樹全体を処分 信	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース (展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ④ モスピラン顆粒水溶剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍	統病部を発見 公分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 45日前まで 4回以内	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にお。 (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に		ごいる場合
前回散布 7日後 雨前休 除 5月下旬 (落花15日後)	は、樹全体を処分 (木) 場合を (本) 場合を (本) 場合 (本)	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース (展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ④ モスピラン顆粒水溶剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍	終病部を発見 公する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる(1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。		ごいる場合
前回散布 7日後 雨前休 除 5月下旬 (落花15日後)	は、樹全体を処分 (木) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース (展着剤)② ジマンダイセン水和剤→ ③ トップジンM水和剤→ 4 モスピラン顆粒水溶剤→ ① アントラコール顆粒水和剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍	統病部を発見 公する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 45日前まで 4回以内 前日まで	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にお。 (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意		いる場合
が 前回散布 7日後 雨前散布 5月下旬 (落花15日後)	は、「大きない」とは、「ない、「ない」とは、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 → ③ トップジンM水和剤 → ① モスピラン顆粒水溶剤 → ① アントラコール顆粒水和剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤)	発見に努める。 10,000倍 10,000倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍 10,000倍	統病部を発見 公する。 (10ml) (166g) (100g) (50g)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内	、健全部 500点 500点	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におる (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので 注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に 散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意		ごいる場合
所 前回散布 7日後 桐前 「下旬 (落花15日後) 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐前 桐	は、「大きない」とは、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ② モスピラン顆粒水溶剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) ② ファンタジスタ顆粒水和剤 ② ファンタジスタ顆粒水和剤	発見に努める。 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍 10,000倍 10,000倍 3,000倍	議病部を発見 分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	、健全部	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にお。 (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 異星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル 500倍		ごいる場合
前回散布 7日後 雨前散布 7日後 雨前散布 (落花15日後) 雨前散布 6月上旬	は、「大きない」とは、「ない、「ない」とは、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ① モスピラン顆粒水溶剤 → ① アントラコール顆粒水和剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤)	発見に努める。 10,000倍 10,000倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍 10,000倍	議病部を発見 分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml)	したら病患部は - 30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内	、健全部 500点 500点	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におって(1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、		ごいる場合
前回散布 7日後 耐筋 (落花1 5月 1 (落花1 6月上旬 耐筋	は、「大きない」とは、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 → ③ トップジンM水和剤 → ① アントラコール顆粒水和剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) → ② ファンタジスタ顆粒水和剤 → ③ ダントツ水溶剤	発見に努める。 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍 1 0,000倍 1 0,000倍 3,000倍 2,000倍	議病部を発見 分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (33g) (50g)	したら病患部は 30日前まで 3回日は内 前日は以内 前日は以内 45日前まで 4回以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 10日まで 3回日まで 3回日まり内 11日以内 11日はい内 11日はい内	、健全部 500点 500点	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にお。 (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 異星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル 500倍	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	ごいる場合
前回散布 7日後 耐加 第 5月 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、「大きない」という。「大きない」という。「大きない」という。「大きない」という。「おおおおおおり」と、「おおおおおおり」と、「おおおおおおり」と、「おおおおおり」と、「おおおおおおり」と、「おおおおおり」と、「おおおおおおり」と、「おおおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおおから、「おおおおから、「おおおおから、「おおおおいま」と、「おおおおいま」と、「おおおおいま」と、「おおおおいま」と、「おおおおいま」と、「おおおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」と、「おおおいま」には、「おおいま」には、「おおまま」には、「おおいま」には、「おまま」には、「ままま」には、「まままま」には、「まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 → ③ トップジンM水和剤 → ① アントラコール顆粒水和剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) → ② ファンタジスタ顆粒水和剤 → ③ ダントツ水溶剤	発見に努める。 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍 1 0,000倍 1 0,000倍 3,000倍 2,000倍	議病部を発見 分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (33g) (50g)	したら病患部は 30日前まで 3回日は内 前日は以内 前日は以内 45日前まで 4回以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 前日は以内 10日まで 3回日まで 3回日まり内 11日以内 11日はい内 11日はい内	、健全部 500点 500点	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におって、注意する。 (1) マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので、注意する。 (1) リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 *** *** *** *** *** *** ***	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	ごいる場合
新回散布 7日後 所 前 第 5月7 9日 前前 (落花 1 5 前前 6月上旬 前前 前年、 6月15 (6/15)	は、「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」、「「「」」」」」」」」」」」」	限元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 → ③ トップジンM水和剤 → ① アントラコール顆粒水和剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) → ② ファンタジスタ顆粒水和剤 → ③ ダントツ水溶剤	発見に努める。 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍 1 0,000倍 1 0,000倍 3,000倍 2,000倍	議病部を発見 引かする。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (200g) (50ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営	したら病患部は - 30日まで 30日は以れで 60日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 10日ま以内 11日前まで 11日前まで	、健全部 500点 500点	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体においては、シャンででは高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1) マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 本名のでは、	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	ごいる場合
新回散布 7日後 所削が加 (落花1 写日 所削が加 (名月上 同削が加 (6/1 所削が加 (6/1 所削が加 (6/1 所削が加) (6/1 所削が加) (6/1 所削が加) (6/1 所削が加)	は、「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」。「「」」」」」」」」」」」」」」」	限元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 らんは切り取り処 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 500倍 10,000倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍	議病部を発見 引かする。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (200g) (50ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営	したら病患部は - 30日前は内 前回日は以下で 60日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以口 前回日は 同回日は 回回日は	、健全部 500 ki	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体においては、シンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1) リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ風地への飛散に注意 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	いる場合
前回散布 7日後 耐満布 5月15 (落花 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑を体務病病の病シゴ病病病がカワ星・病薬シゴンを溶が病点ニ・類ワ・・・落スワ星・病薬シゴンの保護があれる。メタ褐輪赤葉ミタ褐・カタガニ・赤の病病病病病病病病病病病病が、シ病病病病類シ系病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病が、シ病病病病病病病病	限元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 うらんは切り取り処 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 1 0,000倍 1 0,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	議病部を発見 分する。 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営	したら病患部は - 30日まで 30日は以れで 60日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 前回日は以内 10日ま以内 11日前まで 11日前まで	、健全部 500 ki	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におって、注意する。 (1) マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1) リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ尾飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル 500倍 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する サビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2) リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	いる場合
前回散布 7日後 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 の 月 月 月 月 月	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑 黒	根元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 うらんは切り取り処 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 1 0,000倍 1 0,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	能病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営	したら病患部は 一 30個目の 30個目の 60前の 30日の 60前の 30日の 45日の 40回日の 60日の 30日の 45日の 10回日の 30日の 10回日の 30日の	、健全部 500 ki	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にある (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル 500倍 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	だいる場合
前回散布 7日後 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 の 月 月 月 月 月	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑 黒黒角斑 黒黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ は ダ 点を いっこう ない	限元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 らんは切り取り処 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 1 0,000倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	表病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営 (50ml)	したら病患部は 一 30日まで 30回日は以でで 30回日は以ででの 6前回日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の	、健全部 500 ki	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にある (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、 トレノックスフロアブル 500倍 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する(1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	でいる場合
前の日 前の日 前の日 で で で で で で で で で で で で で	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑 黒	限元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 らんは切り取り処 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 10,000倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	表病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営 (50ml)	したら病患部は 一 30個目の 30個目の 60前の 30日の 60前の 30日の 45日の 40回日の 60日の 30日の 45日の 10回日の 30日の 10回日の 30日の	、健全部 500 ki	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にある (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル 500倍 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	でいる場合
新 前 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑 黒黒斑アシ 樹 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	展元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ② モスピラン顆粒水溶剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) ② ファンタジスタ顆粒水和剤 → ③ ダントツ水溶剤 が多かった園地では、カルホス微粒剤 が多かった園地では、カルホス微粒剤 → ① アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル	発見に努める。 発 らんは切り取り処 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 10,000倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	能病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (50ml) (50g) kg(夏繭営 (50ml)	したら病患部は 一 30 個目の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日	、健全部 500 kik	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にある (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ園地への飛散に注意 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。 (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2)降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生	\$\tag{\text{\tinc{\tint{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	でいる場合
新 前 前 下 5 花 第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリモ黒黒う斑 黒黒斑アシキ樹 病病病の病 かつ 星点疽 アン 点点ブンモ は ダ 点点ランンを 病病病の病 かつ 単点疽 アン 点点ブンモ は	限元から切り取り処分)する。枝腐	発見に努める。 発 らんは切り取り処 1 0,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 1 0,000倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	能病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (50ml) (50g) kg(夏繭営 (50ml)	したら病患部は 一 30 個別 で 30 回日	、健全部 500 kik	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体にある (1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ園地への飛散に注意 黒星病対策 さくらんぼ園地への飛散に注意 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。 (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2)降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生	\$\tag{\text{\tinc{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	いる場合
前回散布 7日後 前前 下5日 下5日 前前 6月 1日 前前 前前 (6/ 1月 1日 前前 前前 (6/ 1月 11 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日	は、黒赤黒う黒アリ黒黒炭斑コリ黒黒斑アリ モ黒黒う斑 黒黒斑アシキハ 大き こう	展元から切り取り処分)する。枝腐 ① アイヤーエース(展着剤) ② ジマンダイセン水和剤 ③ トップジンM水和剤 → ② モスピラン顆粒水溶剤 → ② トランスフォームフロアブ ① アイヤーエース(展着剤) ② ファンタジスタ顆粒水和剤 → ③ ダントツ水溶剤 が多かった園地では、カルホス微粒剤 が多かった園地では、カルホス微粒剤 → ① アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル □ アクサーフロアブル	発見に努める。 発 うらんは切り取りが 10,000倍 600倍 1,000倍 2,000倍 10,000倍 10,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	能病部を発見 (10ml) (166g) (100g) (50g) (50ml) (10ml) (33g) (50g) kg(夏繭営 (50ml) (50ml)	したら病患部は - 30 病患部は - 30 月回日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の	、健全部 500 kk 500	を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体においては、1)マンゼブ剤は高温時に薬害が生する場合があるので注意する。 (1)リンゴワタムシの多い園地では、主幹部まで丁寧に散布する。 さくらんぼ園地への飛散に注意 (1)を外方スプロアブル 500倍 (30日前まで5回以内)を加用散布する。 まで4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。 (1)有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (2)リンゴワタムシの多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。 (1)ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 (2)降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生しやすくなるので注意する。	\$\tag{\text{\tinc{\text{\tin}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex{\tex	いる場合

令和5年 りんご病害虫防除暦 (No2)



				農薬使用基準	:1			
防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順 (薬量/水1)		収穫前使用日数 使 用 回 数	(100)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
	黒 星 病 ・ 黒 点 病 炭 疽 病 ・ 輪 紋 病 斑 点 落 葉 病 ・ 褐 斑 病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml 600倍 (166g	1 4日前まで	_	(1) 斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は 剪除する。 (2) 有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので 注意する。 (特につがる、スターキングデリシャス、王林)		
. , 3 = 3	ア ブ ラ ム シ 類 カメムシ類・キンモンホソガ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	③ スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g	4回以内 前日まで	500 ki	(3) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和 剤をファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで 3回以内)に代えて散布する。		
	シンクイムシ類 黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病	① オキシラン水和剤	600倍 (166g	3回以内 14日前まで) 4回以内				
7月中旬	斑点落葉病・褐斑病	② トップジンM水和剤	1,000倍 (100g	- 	- 500ki	青つがる(盆用)には、オキシラン水和剤 の収穫前日数に注意する。	/	
雨前散布	輪 紋 病 ・ 褐 斑 病 ケムシ類・シンクイムシ類・ナンモンホソガ・ハマキムシ類 ギ ン モ ン ハ モ グ リ ガ	③ サムコルフロアブル10	2,500倍 (40ml	前日まで) 3回以内				
		① オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g	14日前まで		(1)サイハロン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
(7/25頃)	輪 紋 病 斑点落葉病 アプラムシ類・ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ			4回以内 7日前まで	500 ki	青つがる(盆用)には、オキシンドー水和剤80に代えてベルクート水和剤1,000倍(前日まで6回以内 但し、開花期以降は3回以内)を散布する。	/	
雨前散布	シンクイムシ類 ナミハダニ リンゴハダニ	② サイハロン水和剤 ③ マイトコーネフロアブル	2,000倍 (50g 1,000倍 (100m)	3回以内 前日まで) 1回	-			
果防止剤の使用	ロンかる」は収穫開始予定程度後にも1回散布できる	3日の約25日前に、ストッポール 3。(収穫開始予定日の25~71 1	ル液剤1,000倍を10を 日前まで2回以内、但し2 	1当にり450〜 回散布の場合は 	600次 10日程 T	散布する。その後追加散布を要する場合は10日 度間隔をあける。) 「	/	
8月上中旬	る 斑 病 黒 星 病 炭 疽 病 ・ 輪 紋 病	① オキシラン水和剤	600倍 (166g	14日前まで) 4回以内		(1)有機銅を含む剤(オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80等)の総使用回数は7回以内(但し、塗布は3回以内、散布は4回以内)なので注意する。		
	斑点落葉病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヒメボクトウ	② エクシレルSE	2,500倍 (40ml	前日まで) 3回以内	500烷	早生種の散布は 収穫14日前まで終了する。		
	黒星病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml) —	-	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。		
8月下旬	斑点落葉病輪紋病・褐斑病すす点病・すす斑病	② ダイパワー水和剤	1,000倍 (100g	前日まで 6回以内 (但し、開花期以 降は3回以内)	500 Hz		/	
	シ ン ク イ ム シ 類 ハ マ キ ム シ 類 キ ン モ ン ホ ソ ガ 黒 星 病	・③ アグロスリン水和剤 ① アイヤーエース(展着剤)	1,000倍 (100g 10,000倍 (10ml	2回以内				
9月上旬	黒 点 病 (すす点病・すす斑病) ア ブ ラ ム シ 類	・② オーソサイド水和剤80	1,000倍 (100g	前日まで	500流	(1)腐らん病対策として、収穫した早生種(つがる) にも散布を行う。	/	
	キ ン モ ン ホ ソ ガ ギンモンハモグリガ シ ン ク ィ ム シ 類 カ メ ム シ 類	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g	前日まで) 3回以内				
果防止剤の使用	昻紅	1,000倍を10a当たり450 林 9月 1E 玉・スターキング 9月10E	3頃		t E	25日前から7日前まで1回の使用とする) たか・千秋 9月5日頃 林 10月1日頃	/	
		」は 9月10日頃 」は10月10日頃 	ヒオモン水溶剤2,00()倍を10a当た 	を10a当たり300~600ℓ散布する。 (収穫開始予定日の21日前~4日前 1回)			
	褐 斑 病 黒 星 病 ・ 黒 点 病 す す 点 病 ・ す す 斑 病 炭 疽 病	① ストライド顆粒水和剤	1,500倍 (66g	開花から 収穫前日まで) 3回以内		(1) 今回以降収穫前まで、低温で降雨が続く場合は、ストライド顆粒水和剤、1,500倍(開花〜収穫前日まで3回以内)を散布する。 (2) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前2回以内、開花後3回以内とする。		
	斑点落葉病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヒメボクトウ	② エクシレルSE	2,500倍 (40ml	前日まで	500 Hz		/	
休眠期	腐 ら ん 病 ──→	① アビオン-E(展着剤)② ベフラン液剤25	2,000倍 (50ml 1,000倍 (100ml	休眠期	350 ¦%	(1)腐らん病(黒星病)防除のため、 必ず散布する。	/	
黒星病対策	単見床 小祭 生	 - が多い周地でけず年の越冬草物	まな低下させる名 = ササᠮエホウ	6回以内 院除としてDI業	 	 OOkg程度/1Oa)を散布する。		

令和5年 ぶどう(ジベ処理デラ)病害虫防除暦



晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

- 1. 第2回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。
- 2. カサかけが遅れると効果が劣る。
- 3. カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。4. カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。

- 5. 枝かけ具は休眠期から5月下旬までにかけ、その後風などでずれた場合は 効果が劣るので随時手直しする。
- 6. 収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順 (薬量/水10			農薬使用基準収穫前使用日数使用 回数	(100)	注意事項	月日	防除実績(メモ)
休眠期	晩 腐 病 黒 と う 病 つ る 割 病	① ベフラン液剤25	250倍		休眠期	200常	 (1)前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の 枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要である ので徹底する。 (2)前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝に トップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を 塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる 恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3)前年ブドウトラカミキリの発生が 多かった園地では、訪花昆虫の活動前に トラサイドA乳剤300倍(発芽前2回以内)を加用散布する。 	/	
	ミツバチ・マメコバ	、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	りんごの花が終	わるまで殺		うわない。			
展葉2~3枚	枝膨病・晩腐病	① デランフロアブル	1,000倍((100ml)	落弁期まで (但し、75日前 まで) 2回以内		=+++==+ ~ ~~~		
(5月上中旬)	カ メ ム シ 類 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 ブドウトラカミキリ	② スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	200流	訪花昆虫の活動がない時に散布する。 		
		- 開予定日の約14日前に10C アグレプト液剤1,000倍を加			は200mg))で実施	する。	/	
		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_				
開花直前	晩 腐 病 ・ 黒 と う 病 うどんこ病・べと病 ──→	② テーク水和剤	1,000倍	(100g)	45日前まで		(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、 見つけ次第捕殺する。		
第1回ジベ処理後	灰色 かび病				2回以内	3001%		/	
(6月上旬)	コ ガ ネ ム シ 類 チャノキイロアザミウマ →	③ アグロスリン水和剤	2,000倍	(50g)	21日前まで				
	フタテンヒメヨコバイ				5回以内				
	晩腐病・褐斑病	① アミスター10フロアブル	1,000倍((100ml)	30日前まで		(1)汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。(2)アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。		
落花直後	灰色かび病・ベと病				3回以内		C 記刈に飛取しないないたがら、		
(6月中旬)	カメムシ類・コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ →	② ダントツ水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで	3001%			
	フタテンヒメヨコバイ				3回以内				
	第2回目ジベ処理は満	開約10日後に75ppm(2点	の水に薬量は15	50mg) 7	で実施する。			/	
第2回ジベ処理後 (6月下旬)	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内	300%	(1)6月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く 飛散するので丁寧に散布する。	/	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草	 草剤を使用するか、ダニ剤散布4{	 日前に草刈を実施	 更する。		ļ			
	黒とう病	① フルーツセイバー	1,500倍	(66ml)	7日前まで		(1)ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を 多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。		
7月上旬	褐 斑 病 灰色かび病・うどんこ病		1,0001	(001117)	3回以内	3001%		/	
	ハ ダ ニ 類 ――	② コロマイト水和剤	2,000倍	(50g)	7日前まで				
					2回以内				
		発する園地では、7月上中下の3 		○ボルドー€	S6D 50倍	(300 ¦	に以上/10a)を散布する。 	/	
	べ と 病	① アビオンーE(展着剤)	2,000倍	(50ml)	_		(1) さび病、べと病の発生が多い園地では、9月		
	さ び 病	② I Cボルドー66D	50倍	(2kg)	_		上中旬にもICボルドー66D50倍を散布する。		
収穫直後	ス カ シ バ 類 ハマ キ ム シ 類	③ フェニックスフロアブル	4,000倍	(25ml)	14日前まで	300%	(2)ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期に トラサイドA乳剤300倍(休眠期2回以内)を 散布する。 トラサイドA乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、 青菜、ダイコン)などに薬害がでるので注意する。		
	ケ ム シ 類				2回以内				 1月1日現在





令和5年 ぶどう(大粒種)病 害 虫 防 除 暦 シャインマスカット・キャンベル・ナイヤガラ・スチューベン・ピオーネ・巨峰等)

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㎏)		農薬使用基準収穫前使用時期使用 回数	散布量 (1 O a)	注意事項	月日	防除実績(メモ)
休眠期	晚腐病	露地栽培 ベフラン液剤25	雨よけハウス栽培 ベフラン液剤25	休眠期		(1) 前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の 枯死部分などの除去は晩腐病防除に重要であるので 徹底する。 (2) 前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝にト		
ごニール被覆前)	編 班 病 黒 と う 病 つ る 割 病	① 250倍(400ml)	① 250倍 (400ml)	1 🗆	200%	ップジンMベースト3倍液(株眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3)前年プドウトラカミキリ(キクイムシ)の発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にトラサイド タアメスののは、経過がなるの以内、なりませます。	/	
		晩腐病・べと病の発生が多い園	 動地では、展葉初期までにICボルト	 66D100倍を単	用散布する。	A乳剤300倍(発芽前2回以内)を加用散布する。 		
	ミツバチ・マメコバチ等の 枝 膨 病 ・ 晩 腐 病	の訪花昆虫を保護するため、りんご						
R#0 0#	黒とう病・ベと病	デランフロアブル ①	・ デランフロアブル	落弁期まで (但し、75日前まで) 2回以内				
展葉2~3枚(5月上中旬)	チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類	1,000倍(100ml)	1,000倍 (100ml)		2001%	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	/	
(3月上中旬)	カ メ ム シ 類	スタークル顆粒水溶剤	スタークル顆粒水溶剤	前日まで				
	ブドウトラカミキリ	2,000倍 (50g) アイヤーエース (展着剤)	2,000倍 (50g) アイヤーエース(展着剤)	3回以内				
展葉7~8枚	黒 と う 病	^① 10,000倍 (10ml)	10,000倍 (10ml)	_		(1) この回以降、マンゼブを含む剤(ペンコゼブ水和 剤、テーク水和剤等)を使用する場合、総使用回数 は2回以内なので注意する。		
(5月下旬)	晩腐病・褐斑病	ペンコゼブ水和剤 2 1,000倍 (100g)	ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	45日前まで 2回以内	2001%	ICZESKIJOC (ZIMO G.	/	
	う ど ん こ 病	マネージDF	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	21日前まで				
ごアカスカシバ	黒とう病・さび病	5,000倍 (20g)		3回以内		<u> </u>		
対策	0.72 cts	フェ <u>ーックスプロア</u> プ	ル500倍(開花前まで1回)を樹頭	幹部に十分かかるよつ(I	こいねいに里	刊散かする。 T		
	・ 腐 病 反 色 か び 病 黒 と う 病	スイッチ顆粒水和剤	スイッチ顆粒水和剤	30日前まで		(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、 見つけ次第捕殺する。 (2) スイッチ顆粒水和剤はさくらんぼに薬害が発生する		
開花前	晚腐病・褐斑病	2,000倍 (50g)	2,000倍 (50g)	o Envir	0.000	恐れがある為、飛散に十分注意する。		
(6月上旬)	さ び 病 ・ ベ と 病 チャノキイロアザミウマ	さくらんぼ飛散厳禁 ペンコゼブ水和剤	さくらんぼ飛散厳禁	2回以内 45日前まで	3001%	(3) パダンSG水溶剤は、デラウェアに登録がないため 散布に十分注意する。		
	フタテンヒメヨコバイ	② 1.000倍 (100g)	ルでは、この一つではなっ	2回以内	_	さくらんほに飛散する恐れがある園地では、スイッチ顆粒水和剤、ベンコゼブ水和剤に代えて		
	ス カ シ バ 類 📗	パダンSG水溶剤 ③ 1,500倍 (66g)	パダンSG水溶剤 2 1,500倍 (66g)	21日前まで 5回以内		テーク水和剤1,000倍(45日前まで2回以内) を散布する。		
	商品性の高い果実を生産 灰色かび病・べと病	でするため、満開前に房づくりを行う アミスター10フロアブル		30日前まで				
	黒とう病・晩腐病	① 1,000倍 (100ml)	① 1,000倍(100ml)	3回以内		(1)満開時の散布をさける。		
落花直後	褐斑病・さび病・枝膨病 ペ と 病	ベトファイター顆粒水和剤	ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで	300ki	(2) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (3) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出る		
(6月中旬)	± 1 1 × 5 × 5	2,000倍 (50g)		3回以内 前日まで	300%	ので絶対に飛散しない様に注意する。		
	ク ビ ア カ ス カ シ バ チャノキイロアザミウマ		テッパン液剤 ③ テッパン液剤	2回以内				
	褐斑病・黒とう病	2,000倍 (50ml) パレード15フロアブル	2,000倍 (50ml)	7日前まで				
	さ び 病 灰 色 か び 病	2,000倍 (50ml) アリエッティ水和剤		2回以内 30日前まで				
6月下旬	べ と 病	② 800倍 (125g)		3回以内	300%			
	アザミウマ類・ハダニ類 フタテンヒメヨコバイ	アーデント水和剤 3 1,000倍 (100g)		7日前まで 4回以内				
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草	草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前	」 前に草刈を実施する。		<u> </u>			
	黒とう病・晩腐病。る斑病・さび病		 フルーツセイバー	7日前まで				
	灰色かび病・うどんこ病		1,500倍 (66ml)	3回以内				
	カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ		ダントツ水溶剤	前日まで				
	チャノキイロアザミウマ		2,000倍 (50g)	3回以内				
落花15日後 (7月上旬)	ハ ダ ニ 類 ──→		3 3 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内	300%		/	
(1/기도민/	べ と 病—→	ランマンフロアブル ①	2,00010 (008)	14日前まで				
		2,000倍 (50ml)		3回以内		(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多 く準備し、散布ムラのないように十分散布する。		
	フタテンヒメヨコバイ	ダントツ水溶剤		前日まで		(2)露地栽培で、べと病が発生した場合は、		
	チャノキイロアザミウマ	2,000倍(50g)コロマイト水和剤		3回以内 7日前まで		ベトファイター顆粒水和剤2,000倍 (30日前まで3回以内)を単用散布する。		
	ハ ダ 二 類 →	③ 2,000倍 (50g)	4 \/// \(\tau\)\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	2回以内				
袋かけ前	黒とう病・晩腐病褐斑病・さび病	オンリーワンフロアブル2,000倍 (50m1)	オンリーワンフロアブル2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	250祝	(1) さび病の多発するところでは、7月上旬及び7月 下旬にICポルドー66D50倍を棚上から散布す		
(7月中旬)	灰色かび病・うどんこ病 チャノキイロアザミウマー	テルスターフロアブル ② 4,000倍 (25ml)	② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 1回	∠ J U Fili	<u></u> నం		
40 A	べと病一、	レーバスフロアブル	4,000 (25ml)	7日前まで				
袋かけ直後	黒とう病・晩腐病	3,000倍 (33ml) フルーツセイバー	プルーツセイバー	3回以内 7日前まで	250況		/	
(7月下旬)	優 斑 病 ・ さ ひ 病 灰色かび病・うどんこ病	2 1,500倍 (66ml)	① 1,500倍 (66ml)	7日削まで 3回以内				
	黒とう病・晩腐病	オンリーワンフロアブル	_① オンリーワンフロアブル	前日まで		(1) さび病、べと病の多発するところではこの回以降 も I Cボルドー66D50倍を棚上から散布する。		
収穫前	極 城 病 ・ さ ひ 病 ▼	2,000倍 (50ml)	2,000倍 (50ml)	3回以内	250祝	0 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		
(8月中旬)	カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメョコバイ	ダントツ水溶剤		前日まで	∠ O U Fií			
	チャノキイロアザミウマ	2,000倍 (50g)		3回以内				
		アビオン-E(展着剤) ① 2,000倍 (50ml)	アビオンーE(展着剤)	_		(1) ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にト		
収穫後	ベ と 病 o	2,000倍 (50ml) I Cボルドー66D	2,000倍 (50ml) 2 I Cボルドー66D	_	300U~	ラサイドA乳剤300倍(休眠期2回以内)を散布する。 トラサイドA乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、 青菜、ダイコン)などに薬害がでるので注意する。		
以慢恆	スカシバ類 ハマキムシ類 -	2 50倍 (2kg) フェニックスフロアブル	② 50倍 (2kg) フェニックスフロアブル	— 1 4日前まで	3001%			
				· LALHBUT (*			1 I	

【植物成長調節剤使用基準】 (シャ	インマスカット・ピオーネ等)							
		使用時期						
使用薬剤	満開予定14日前	1 🗆 🖯	20目	使用回数				
	~開花始期	満開期から満開3日後	満開10~15日後					
アグレプト液剤	1,000倍			1 🗆				
ジベレリン錠剤		12.5~25ppm	25ppm	0.6				
リー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(1錠あたり水2~1端)	(1錠あたり水1%)	20				
フルマット流刻		2~5ppm		10				
フルメット液剤		(10ccあたり5~2点)	_					
フラスター液剤	②満開10~20日後(但	枚時(開花始期まで)2,000倍(15 し、収穫60日前まで)1,000倍(3 梢伸長抑制効果があるため、樹勢が乳	00%/10a散布)2回目	20				

令和5年 すもも(プルーン) 病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順 (薬量/水1		農薬使用 収穫前使用 使用回	日数	注意事項	月日 防除実 (メモ
	カイガラムシ類-	→ ① スプレーオイル	50倍 (2点 発芽前ま		(1)マシン油等を使用する時は、低温時の使用	
発芽前	ふ く ろ み 病 ―		500倍(200	ml) 14日前間 3回以内	まで 350点	をさけ好天の続く時に使用する。 (2)発芽前までに遅れない様に散布する。	/
	カイガラムシ類幼虫 -	 → ③ アプロードフロアブル	1,000倍(100	1 4 D ## =	きで	(3) 枝を洗うように丁寧に散布する。	
	 /ェロモン剤設置時期	 朗(4月20日頃)【 ナシヒメシン:				└───── ~100本/10a 】	/
開花前	黒 斑 病 か い よ う 病	→ ① I Cボルドー412	30倍 (3.3	k g) —	350%	(1)前年度、黒斑病・かいよう病の発生が あった園地では必ず散布する。 (2) 開花前まで遅れないように散布する。	/
4月下旬		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10	m1) —			
(満開3日後)	黒斑病一	② マイコシールド	2,000倍 (5	21日前ま 3回以内	まで 350点		
	ミツバ	チ・マメコバチ等の訪花昆虫を保	護する為、りんごの花			剤を除く)散布は行わない。 ■	
		→ ① オンリーワンフロアブル 	2,000倍 (50	3回以内		(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り 土中深く埋める。	
5月上旬 (殺虫剤解禁直後)	黒 斑 病 か い よ う 病 ケ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	② アグレプト水和剤 	1,000倍 (10	乙凹以內	400 ° %		
	ケ ム シ 類 シンクイムシ 類 コス カ シ ガ ハ マ キ ム シ 類	→ ③ フェニックスフロアブル	4,000倍 (25	前日まで ml) 2回以内			
	炭 疽 病 ふ く ろ み 病	→ ① トレノックスフロアブル	500倍(200	ml) 14日前司 3回以内	きで		
5月中旬	黒斑病一	② マイコシールド	2,000倍 (5	21日前ま 3回以内	きで 400%		/
	ア ブ ラ ム シ 類		2,000倍 (5	Og) 前日まで 3回以内	<u>~</u>		
フェロモンA	シックィムシ類 設置時期(5月2 (<u></u> 0日頃)【 コスカシバ対策はスカシ	バコンL50~100本			 マキコン-N150本/10a 】	/
	炭 疽 病		500倍(200	m 1)	EC		
5月下旬	ふ く ろ み 病」ア ブ ラ ム シ 類		1,000倍 (10	21日前ま	400歳		/
	シンクイムシ類 灰星 病一	→ ① オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50	2回以内 前日まて	7		
6月上旬	黒斑病一			21日前ま	きで	早生種の散布は収穫21日前	
	ア ブ ラ ム シ 類			つ =) 前日まで	<u> </u>	まで終了する。	
	(シンクイムシ類)	- 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「		2回以内			
6月中旬	ア ブ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 灰 星 病	① スカウトフロアブル	2,000倍 (50	3 回以/:	J 400 Fit	(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	
	黒星病	→ ① ナリアWDG	2,000倍 (5	Og) 前日まで 2回以内		(1)ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ) ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、	
6月下旬	ア ブ ラ ム シ 類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	② モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (5	のg) 前日まで 3回以内	400 km	シャルドネ)に薬害がでるので注意する。	/
	ナミハダニー	→ ③ ダニコングフロアブル	2,000倍 (50				
7月上旬	灰 星 病 - ケ ム シ 類	→ ① インダーフロアブル 	5,000倍 (20	ml) 前日まで 4回以内	400%		
1/329	シンクイムシ類	→ ② エクシレルSE	2,500倍 (40	m 1) 前日まで 3回以内	7		
	黒星病一	→ ① スクレアフロアブル	3,000倍 (33	m 1) 前日まで 3回以内		ま性が極めて強いので養魚池、河川等の近 	
7月中旬	ハダニ類	→ ② アーデントフロアブル	2,000倍 (50				/
	シンクイムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10	3回以内	Ŋ	くでは絶対に使用しない。	
7月下旬	ア ブ ラ ム シ 類 シンクィムシ類 カイガラムシ類	→ ② モスピラン顆粒水溶剤		前日まで Og) 3回以内			
8月上中旬	灰 星 病一	→ ① オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50	<u> </u>	7		
8月上中旬	ケ ム シ 類	→ ② エクシレルSE	2,500倍 (40	前日まで	400次		
	灰 星 病」す 点 病	→ ① アミスター10フロアブル	1,000倍(100		71	(1)スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性 が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは 絶対に使用しない。	
8月下旬	す す 点 病 シンクイムシ類 アブラムシ類	② スカウトフロアブル	2,000倍 (50	3回以内 前日まで ml) 3回以内	400次	晩生種のみ散布する。	
9月上旬	灰 星 病一	→ ① インダーフロアブル	5,000倍 (20		2	協生活の2.単左オフ	
(除袋後)	ケ ム シ 類 シンクイムシ類	→ ② エクシレルSE	2,500倍 (40	ml) 前日まで 3回以内	400 ki	晩生種のみ散布する。	
		① アビオンーE(展着剤)	2,000倍 (50	m1) —		田州,亡《夕兆』上字"	
収穫後	か い よ う 病 黒 斑 病	② I Cボルドー412	30倍 (3.3	kg) —	400%		
	コ ス カ シ バー	→ ③ フェニックスフロアブル	4,000倍 (25	m 1) 前日まで 2回以内	7	を前回散布14日後に追加散布する。	

令和5年 うめ病害虫防除暦



対象病害虫	薬剤名・混用順 (薬量/水1	原序・倍数 〇〇次)		(1 O a)	注意事項	月日	防除実績(メモ)
カイガラムシ類――	① スプレーオイル	50倍 (2湖	発芽前まで		(1) 品種や系統によって発芽時期が異なるので適期		
黒星病──	② トレノックスフロアブル	500倍(200ml)	21日前まで 2回以内	350流	 (2)マシン油等を使用するときは、低温時の使用を	/	
カイガラムシ類幼虫 ――	③ アプロードフロアブル	1,000倍(100m1)	7日前まで 2回以内		避け、好天の続くときに使用する。		
	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10m1)	_				
黒星病すず斑病	② オーソサイド水和剤80	800倍(125g)	21日前まで3回以内	350%	(1)ヤ二吹き果の多い樹では、この回以降3回、ヨーヒB5、800倍を加用散布する。	/	
ミツバチ	・マメコバチ等の訪花昆虫を	呆護する為、りんごの花	が終わるまで殺	虫剤(B	T剤を除く)散布は行わない。		
黒星病す斑病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	_		(1) 訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前(15℃ になる前)に防除を終了する。		
	② ナリアWDG	2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内	400%		/	
ア ブ ラ ム シ 類──→	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設	置時期(5月20日頃)【	コスカシバ対策ス	カシバコンL	50~1	00本/10a 】	/	
黒 星 病 ──→	① トレノックスフロアブル	500倍(200ml)	21日前まで 2回以内	400 ki		/	
	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	_		(1)日中高温時(25℃以上)の散布は避ける。		
黒 星 病 す 斑 病	② スコア顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで3回以内	400%			
	③ バリアード顆粒水和剤	4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
J	トミハダニが発生した場合、ダニ	コングフロアブル2,000	O倍(前日まで1回	3)を散布	5する。	/	
ケ ム シ 類	① フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	4001%		/	
	カ 黒 す	カィガラムシ類 ① スプレーオイル 黒 星 病 ② トレノックスフロアブル カィガラムシ類幼虫 ③ アプロードフロアブル ① アイヤーエース(展着剤) ② オーソサイド水和剤80 ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を(① アイヤーエース(展着剤) ② オリアWDG プ フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【 黒 星 病 ① トレノックスフロアブル ① アイヤーエース(展着剤) ② ナリアWDG ③ モスピラン顆粒水溶剤 フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【	カィガラムシ類 ① スプレーオイル 50倍 (2%) 黒 星 病 ② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) の アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (100ml) ② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g) ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のででである。 カルごの花のででである。 カルごの花のででである。 カルごの花のででである。 カルごの花のででである。 カルごの花のででである。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のでである。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のででである。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のでである。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のできます。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のできます。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のでである。 カー・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花のできます。 カー・マメコバチ等の訪れています。 カー・マメコバチャーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml) コスカシバ対策 スターフェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策 スターフェロー・ファブル 500倍 (200ml) コスカシバ対策 スターファブル 500倍 (200ml) コスカシバ対策 スターファブル 500倍 (25g) カー・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	対象病害虫	対象病害虫	対象の数型	対象の概要 大田田野・青秋 大田田野・青秋 大田田野・青秋 大田田野・青秋 大田田野・青田 大田田野 大田町 大田田野 大田田町 大田田野 大田田町 大田田町

令和5年 かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㎏)			農薬使用基準収穫前使用日数使用回数	(102)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期	カイガラムシ類――	→ ① スプレーオイル	50倍	(2ば)	発芽前まで	· 350況	(1)マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ 好天の続く時に使用する。		
(発芽前)	カイガラムシ類 幼 虫	→ ② アプロード水和剤	1,000倍	(100g)	開花期まで (但し、45日前まで) 2回以内	33011			
	ミツバ	チ・マメコバチ等の訪花昆虫を	保護する為、り	んごの花れ	が終わるまで殺虫	R剤(B	T剤を除く)散布は行わない。		
5月中旬	アザミウマ類カイガラムシ類カメムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_	400 ki	(1) ハマキムシ類の発生の多い園地ではさらに ダイアジノン水和別34 1,000倍を散布する。		
0/3 1 9	カイガラム シ 類 カメムシ 類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシガ	→ ② モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	1001%	(45日前まで4回以内)		
BB tt 法 **		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_				
開花直前 (5月下旬頃)	落 葉 病 炭 疽 病 す 点 病	→ ② オーソサイド水和剤80	1,000倍	(100g)	7日前まで 5回以内	500%		/	
	フジコナカイガラムシ カキノヘタムシガ カメムシ類	→ ③ サイアノックス水和剤	1,000倍	(100g)	45日前まで 3回以内				
満開期	炭疽病・うどんこ病 落 葉 病	→ ① オンリーワンフロアブル	2,000倍	(50ml)	前日まで 3回以内	- 500ki	 (1) 落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、 遅れないように葉裏まで「丁寧」に散布する。		
(6/10頃)	ア ザ ミ ウ マ 類 カキノヘタムシガ	→ ② アグロスリン水和剤	1,000倍	(100g)	前日まで 3回以内	300 Fil			
6月中下旬	炭 疽 病 ・ 落 葉 病 う ど ん こ 病	→ ① トレノックスフロアブル	500倍	(200ml)	30日前まで 2回以内	- 500ki			
0/141/9	ア ザ ミ ウ マ 類 カキノヒメヨコバイ	→ ② ダントツ水溶剤	4,000倍	(25g)	7日前まで 3回以内	300 F/V			
		① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍	(10ml)	_				
7月中旬	落葉病・炭疽病	→ ② オキシンドー水和剤80	1,000倍	(100g)	14日前まで5回以内	500次		/	
	ア ザ ミ ウ マ 類	→ ③ アグロスリン水和剤	1,000倍	(100g)	前日まで 3回以内				
7 8 7 5	落葉病・炭疽病	→ ① オキシンドー水和剤80	1,000倍	(100g)	1 4日前まで 5回以内	E O O Uw			
7月下旬	ア ザ ミ ウ マ 類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	→ ② バリアード顆粒水和剤	2,000倍	(50g)	前日まで 3回以内	- 500流			
0.01.1.5	落 葉 病 ・ 炭 疽 病 黒 点 病 ・ す す 点 病 う ど ん こ 病	→ ① アミスター10フロアブル	1,000倍	(100ml)	7日前まで 3回以内	- 500ki	(1) アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 (2) 降雨の続く場合は、落葉病対策としてさらに 9月上旬にナリアWDG2,000倍(前日まで 2回以内)を散布する。ただし、ナリアWDGは、 西洋なし(ル・レクチェ)、ぶどう(ピオーネ、		
8月上中旬	フジコナカイガラムシ カキノヘタムシガ カメムシ類	→ ② サイアノックス水和剤	1,000倍	(100g)	45日前まで 3回以内	7 O O Fil	藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に 薬害がでるので注意する。 (3) チャノキイロアザミウマの発生が多い場合は、 9月上旬にアディオン乳剤3,000倍を散布す る。(7日前まで5回以内)		
							$\overline{}$	つ年	1 1 日1日現在